



# RMX 2000 スタートアップガイド Version 3.0



POLYCOM®

Copyright © 2008 Polycom, Inc.  
All Rights Reserved

Catalog No. DOC2213A  
Version **3.0**

#### **Proprietary and Confidential**

The information contained herein is the sole intellectual property of Polycom, Inc. No distribution, reproduction or unauthorized use of these materials is permitted without the expressed written consent of Polycom, Inc. Information contained herein is subject to change without notice and does not represent commitment of any type on the part of Polycom, Inc. Polycom and Accord are registered trademarks of Polycom, Inc.

#### **Notice**

While reasonable effort was made to ensure that the information in this document was complete and accurate at the time of printing, Polycom, Inc., cannot assume responsibility for any errors. Changes and/or corrections to the information contained in this document may be incorporated into future issues. Portions, aspects and/or features of this product are protected under United States Patent Law in accordance with the claims of United States Patent No: US 6,300,973; US 6,496,216; US 6,757,005; US 6,760,750; and US 7,054,620.

PATENT PENDING

## Regulatory Notices

### United States Federal Communication Commission (FCC)

**Part 15: Class A Statement.** This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. Test limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses and can radiate radio-frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manuals, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his or her own expense.

**Part 68: Network Registration Number.** This equipment is registered with the FCC in accordance with Part 68 of the FCC Rules. This equipment is identified by the FCC registration number.

If requested, the FCC registration Number and REN must be provided to the telephone company.

Any repairs to this equipment must be carried out by Polycom Inc. or our designated agent. This stipulation is required by the FCC and applies during and after the warranty period.

#### United States Safety Construction Details:

- All connections are indoor only.
- Unit is intended for RESTRICTED ACCESS LOCATION.
- Unit is to be installed in accordance with the National Electrical Code.
- The branch circuit overcurrent protection shall be rated 20 A for the AC system.
- This equipment has a maximum operating ambient of 40°C, the ambient temperature in the rack shall not exceed this temperature.

To eliminate the risk of battery explosion, the battery should not be replaced by an incorrect type.

Dispose of used batteries according to their instructions.

### CE Mark R&TTE Directive

Polycom Inc., declares that the RMX 2000 is in conformity with the following relevant harmonized standards:

EN 60950-1:2001

EN 55022: 1998+A1:2000+A2:2003 class A

EN 300 386 V1.3.3: 2005

Following the provisions of the Council Directive 1999/CE on radio and telecommunication terminal equipment and the recognition of its conformity.

#### Canadian Department of Communications

This Class [A] digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

**Notice:** The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets telecommunication network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection. The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations. Repairs to certified equipment malfunctions, may give the telecommunications company causes to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

**Caution:** Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

## **Regulatory Notices**

### **Chinese Communication Certificate**

#### **声 明**

此为 A 级产品，在生活环境中，该产品可能会造成无线电干扰。在这种情况下，可能需要用户对其干扰采取切实可行的措施。

### **Singapore Certificate**

RMX 2000 complies with IDA standards G0916-07

# 目次

<b>システム概要 .....</b>	<b>1-1</b>
RMX 2000 .....	1-1
RMX の主な機能 .....	1-3
ビデオ表示 .....	1-3
ダイナミックな Continuous Presence .....	1-3
ハイディフィニション (HD) .....	1-4
スタンダードデフィニション (SD) .....	1-4
4CIF .....	1-4
複数の切り替えモード .....	1-5
H.239 / People+Content .....	1-5
臨場感 .....	1-5
IVR 対応の会議 .....	1-6
エントリーキュー .....	1-6
会議の機能とオプション .....	1-6
オンデマンド会議 .....	1-6
接続方法 .....	1-7
セキュリティ .....	1-7
会議の管理機能とモニタリング機能 .....	1-7
<b>初めての設置と設定 .....</b>	<b>2-1</b>
ハードウェアの設置とセットアップ .....	2-1
ラックへの RMX の取り付け .....	2-2
ケーブルの接続 .....	2-3
ネットワーク装置情報およびアドレス情報の収集 .....	2-4
IP サービス .....	2-4
管理ネットワーク .....	2-4
デフォルトの IP サービス (会議サービス) .....	2-4
IP ネットワークサービスの必須情報 .....	2-4
ISDN/PSTN サービス .....	2-6
最初の設定 .....	2-7
手順 1: 製品の登録 .....	2-7
アクティベーションキーの入手 .....	2-7
手順 2: 出荷時デフォルトの管理ネットワーク設定の変更 .....	2-8

管理ネットワークの定義 .....	2-8
USB キーの設定の変更 .....	2-8
手順 3: 初回の電源投入と MCU への接続 .....	2-9
手順 4: デフォルトの IP サービスおよび ISDN/PSTN ネットワークサービス設定の変更 .....	2-12
最初の設定ウィザード .....	2-13
RMX Web Client 言語の選択 .....	2-35
ユーザ定義 .....	2-35
RMX のデフォルトの会議設定 .....	2-35
RMX のデフォルト会議設定のカスタマイズ .....	2-38
<b>基本操作 .....</b>	<b>3-1</b>
RMX Web Client の起動 .....	3-1
RMX Web Client の画面コンポーネント .....	3-3
表示およびシステム機能に関する許可 .....	3-4
会議リスト .....	3-5
リスト .....	3-6
RMX 管理 .....	3-6
ステータスバー .....	3-6
システムアラート .....	3-7
参加者アラート .....	3-7
ポート使用状況ゲージ .....	3-7
MCU 状態 .....	3-8
ここをクリック .....	3-8
アドレス帳の表示と非表示 .....	3-10
メイン画面のカスタマイズ .....	3-10
RMX 管理ウィンドウのカスタマイズ .....	3-11
会議の開始 .....	3-13
会議ウィンドウからの会議の開始 .....	3-14
一般タブ .....	3-15
参加者タブ .....	3-18
情報タブ .....	3-22
会議への接続 .....	3-24
直接ダイヤルイン .....	3-24
H.323 参加者 .....	3-25
SIP 参加者 .....	3-25

エントリーキューアクセス .....	3-26
H.323 参加者 .....	3-26
SIP 参加者 .....	3-27
ISDN/PSTN 参加者 .....	3-27
ビデオレイアウトにおけるエンドポイント名 .....	3-28
エンドポイント名 .....	3-28
テキスト表示 .....	3-31
エンドポイント名の透明度 .....	3-32
開催中の会議のモニタリング .....	3-32
操作の選択 .....	3-32
複数選択 .....	3-34
会議レベルのモニタリング .....	3-34
安全な会議のモニタリング .....	3-37
参加者レベルのモニタリング .....	3-37
参加者の接続のモニタリング .....	3-37
開催中の会議で実行される操作 .....	3-40
会議レベルの操作 .....	3-40
会議時間の変更 .....	3-40
会議のビデオレイアウトの変更 .....	3-42
Video Forcing .....	3-43
参加者レベルの操作 .....	3-46
個人レイアウトの制御 .....	3-49
DTMF コードの使用による会議制御 .....	3-52
<b>用語集 .....</b>	<b>A-1</b>





# システム概要

このマニュアルでは、RMX システムの設置と基本操作について説明します。



議長およびオペレーター（他のユーザのために会議を開始し、管理するユーザ）は、次の章をお読みください。

- 第1章 - システム概要
- 第3章 - 基本操作

システム管理者は、次の章をお読みください。

- 第1章 - システム概要
- 第2章 - 初めての設置と設定
- 第3章 - 基本操作

システムの設定および管理の詳細については、システムに付属する *RMX 2000 Administrator's Guide* を参照してください。

## RMX 2000

Polycom RMX 2000 Multipoint Control Unit (MCU) は、機能豊富で使いやすい多地点音声 / ビデオ会議システムを提供する、高パフォーマンスで拡張可能な IP ネットワーク (H.323 および SIP)/PSTN ソリューションです。

RMX MCU は、国際電気通信連合の電気通信標準化部門 (ITU-T、旧称 CCITT) による多地点マルチメディアブリッジデバイスの標準を満たしており、欧州通信規格協会 (ETSI) による電気通信製品の標準も満たしています。

さらに、RMX ユニットの IETF ( インターネットエンジニアリングタスクフォース ) に従って設計されています。IETF は、インターネットアーキテクチャの進化とインターネットの円滑な操作に関心を寄せるネットワーク設計者、オペレーター、ベンダー、研究者から成る大規模で開かれた国際コミュニティです。

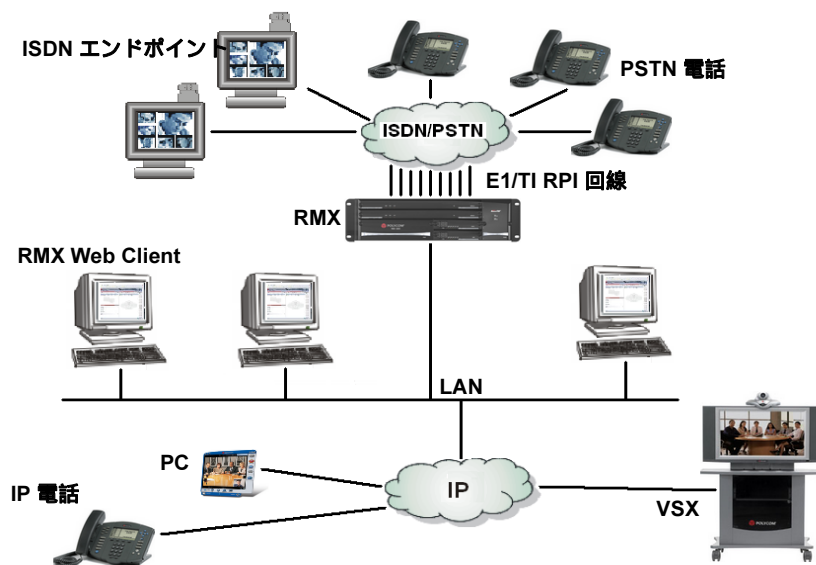


図 1-1 Polycom RMX 2000 を使用した多地点ビデオ会議

Polycom RMX 2000 ユニットの制御は、LAN を介して Polycom RMX 2000 Web Client アプリケーションで行います。これにはユーザのワークステーションにインストールされた Internet Explorer® を使用します。RMX の管理と IP 会議はどちらも同じ 1 つの LAN ポートで実行されます。最大で 2 枚の ISDN/PSTN カードがサポートされ、各カードは最大で 7 本の E1 回線または 9 本の T1 PRI 回線の接続を提供します (同時に使用することはできません)。

# RMX の主な機能

## ビデオ表示

### ダイナミックな Continuous Presence

RMX システムのダイナミックな Continuous Presence 機能により、ビデオ会議用に複数の表示オプションとウィンドウレイアウトが提供され、表示の柔軟性が実現されます。Continuous Presence モードでは、24 通りのレイアウトがあり、さまざまな数の参加者を表示できます。また、4CIF の解像度ではなくワイドビデオフォーマットを送信するエンドポイントに対する H.264 プロトコルの VUI 付加情報のサポートを含む会議設定も提供されます。

表 1-1 Continuous Presence ビデオレイアウト

表 1-1 Continuous Presence ビデオレイアウト ( 続き )



## ハイディフィニション (HD)

HD は、HD 対応のエンドポイントから解像度 1280p720 (720p) で会議に接続できるようにする超高品質のビデオ解像度です。

ビットレートは 1024 Kbps ~ 2 Mbps です。

HD は次の 2 つのモードでサポートされます。

- **Continuous Presence** - デフォルトでは、すべての会議、エントリーキュー、およびミーティングルームが最大 CP 解像度を宣言できます。
- **ハイディフィニションビデオスイッチ** - HD CP よりビデオが高品質になるとともに、使用するシステムリソースが少なくなります。ビデオレイアウトは 1p1 のみで、会議には次の要件があります。
  - 専用のプロファイルがある。
  - 専用のエントリーキューがある。
  - すべての参加者が HD 対応のエンドポイントを持っている。
  - すべての参加者が同じ会議回線速度を使用して接続する。
 これらの要件を満たすことのできないエンドポイントは、セカンダリ（オーディオのみ）として接続されます。

## スタンダードデフィニション (SD)

SD は、H.264 ビデオアルゴリズムを使用する高品質ビデオプロトコルです。このプロトコルにより、HD 対応のエンドポイントから PAL システムの会議に解像度 720~576 で、NTSC システムの会議に解像度 720~480 で接続できます。SD のビットレートは 256 Kbps ~ 2 Mbps です。

## 4CIF

H.263 エンドポイントの 4CIF 解像度は、ビデオ画質がシャープネスに設定され、回線速度が 384 ~

1920 Kbps の会議でサポートされます。

## 複数の切り替えモード

選択したレイアウトのビデオウィンドウの数より参加者の数が多い場合、次のいずれかのモードでビデオ参加者の切り替えを実行できます。

- 音声のアクティベーション。
- RMX ユーザが、選択したビデオウィンドウに参加者を強制的に表示する。
- レクチャーモード。講師がすべての会議参加者にフルスクリーンで表示されます。発言者の表示では、オーディエンスが「時間で切り替え」られます。
- プレゼンテーションモード。発言者のプレゼンテーションが決められた時間を超えると、その発言者が現在の講師になり、会議がレクチャーモードに切り替わります。

## H.239 / People+Content

H.239 プロトコル対応のエンドポイントは、コンテンツを共有できます。デフォルトでは、RMX で開始されるすべての会議、エントリーキュー、およびミーティングルームが H.239 機能を持ちます。このプロトコルは、MIH カスケード会議でもサポートされます。

*People+Content* は、Polycom が独自開発した、H.239 と同等のプロトコルです。

## 臨場感

TPX (Telepresence) および RPX (Realpresence) ルームシステムはハイディフィニションカメラで構成され、すべての参加者が同じ会議室にいるような感じを得られるように画像をセットアップします。

RMX は、ポイントツーポイント接続を使用できない会議に**臨場感**ルームで接続することができます。

**臨場感**ルームを使用するオペレーターが TPX および RPX ルームシステムを設定する際に更に多くのオプションを使用できるように、ビデオレイアウトが追加されています。

## IVR 対応の会議

Interactive Voice Response (IVR) は、接続プロセスを自動化し、開催中の会議で参加者がさまざまな操作を行うことを可能にするソフトウェアモジュールです。参加者はエンドポイントのキーパッドとリモコンを使用して、会議のメニュー駆動型スクリプトを DTMF コードで操作します。

参加者または議長が会議中に実行できる操作には、次のものがあります。

- 会議を手動で終了する。
- 参加者の音声チャンネルをミュートまたはミュート解除する。
- 参加者の発信ボリュームおよび受信ボリュームを調整する。
- ヘルプメニューを再生する。
- 未定義のダイヤルイン参加者が会議に参加したときに、その参加者をミュートまたはミュート解除する。
- 点呼を要求する、点呼名前前の見直しを停止する。
- 会議のセキュリティ保護の切り替え

## エントリーキュー

エントリーキューは、ビデオ参加者およびオーディオ参加者をルーティングするための特別なロビーです。エントリーキュー ID またはダイヤルイン番号 (PSTN) をダイヤルした後、参加者を適切な会議に接続するために IVR サービスの音声プロンプトが使用されます。

このサービスは、Ad Hoc 会議を開始する権限または開催中の会議に参加する権限を参加者が持っていることをシステムが確認するためにも使用されます。

## 会議の機能とオプション

### オンデマンド会議

会議をセットアップするときは、次のオプションを使用できます。

- 新規会議 - 1 度セットアップし、1 度使用します。  
会議は終了後、MCU から削除されます。

- ミーティングルーム - 1 度セットアップし、何度も使用します。  
ミーティングルームは ( リソースを使用せずに ) メモリに保存され、必要に応じて何度でもアクティブにすることができます。
- Ad Hoc エントリーキュー - セットアップなし。ユーザがダイヤルインしたときに新しい会議が作成されます。

## 接続方法

- ダイヤルアウト : 自動、定義済みの参加者へ ( 回線速度の検出は自動 )
- ダイヤルイン :
  - 定義済みの参加者から (IP)
  - 未定義の参加者から会議に直接 (IP)
  - 未定義の参加者から単一ダイヤルのエントリーキューを介して (IP および ISDN/PSTN)
- カスケード会議 :
  - 単純カスケード ( スタートポロジ )
  - 多階層カスケード (MIH)

## セキュリティ

- 会議レベルおよび参加者レベルで、AES 128 のメディア暗号化規格および DH 1024 の鍵交換規格に基づいたメディア暗号化 (IP のみ) が可能です。
- 安全な通信モード (SSL/TLS)
- DTMF コードによる安全な会議
- 安全な会議におけるモニターの制限
- RMX システムにおける設定変更および異常または悪意のある活動を監査役が分析

## 会議の管理機能とモニタリング機能

Polycom RMX 2000 Web Client は、参加者や会議を管理およびモニタリングするための機能を提供します。次の機能があります。

- Continuous Presence 会議でのレクチャーモードまたはプレゼンテーションモード
- ビデオ会議での相手側からのカメラ制御 (FECC/LSD)

- アイドル会議 ( 参加者のいない会議 ) の自動終了
- 会議時間の自動延長
- 個々の参加者の受信ボリュームおよび発信ボリュームの制御
- Auto Gain Control (AGC) による個々の参加者の雑音およびボリュームの調整
- 参加者のエンドポイントまたは電話からの DTMF コードによる会議制御
- エントリー、退席、および会議終了の表示
- メディア暗号化
- すべての会議および参加者をアクティブに表示 ( 安全な会議における表示を制限するオプションあり )
- 各参加者の接続ステータスおよび設定のリアルタイムモニタリング
- 参加者の複数のドラッグアンドドロップ
- Call Detail Record (CDR) への容易なアクセス ( 管理者向け )
- すべてのシステムリソースのアクティブな表示



# 初めての設置と設定

RMX 2000 を初めて設置および設定する場合は、次の手順を実行します。

- 1 ハードウェアの設置とセットアップ
  - RMX をラックに取り付けます。
  - 必要なケーブルを接続します。
- 2 ネットワーク装置情報およびアドレス情報の収集
  - RMX をネットワークに統合するために必要な情報を収集します。
- 3 最初の設定
  - RMX を登録します。
  - RMX の電源を入れます。
  - 管理ネットワークに変更を加えます。
  - デフォルトの IP ネットワークサービスを設定します。
  - ISDN/PSTN ネットワークサービスを設定します。

ハードウェアの  
設置  
と  
セットアップ

ネットワーク装置  
情報およびアドレ  
ス情報の収集

最初の設定

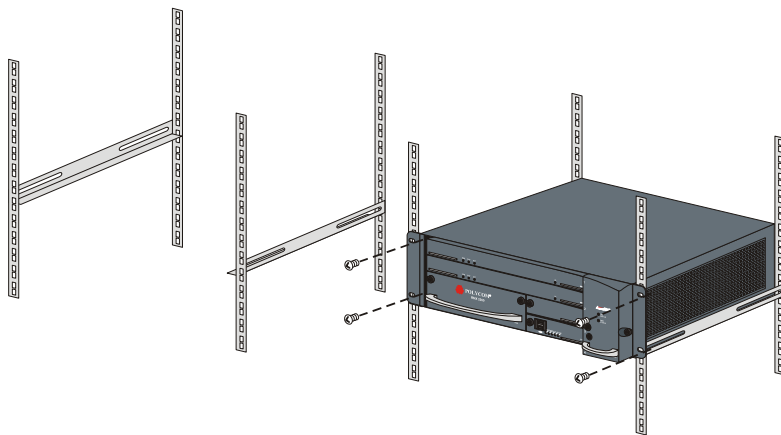
## ハードウェアの設置とセットアップ

RMX ユニットは、換気の良い場所の 19 インチラックに取り付ける必要があります。RMX 2000 Hardware Guide の「Site Requirements」(1-3 ページ) で説明されている サイト要件を遵守することが重要です。

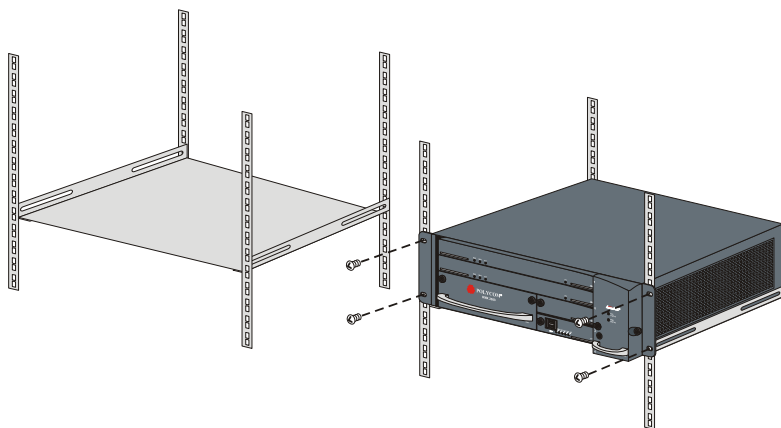
## ラックへの RMX の取り付け

RMX をラックに取り付ける方法には、次の2つがあります。

- **ラックの取り付け金具を使用する** - ラックの製造業者から提供された取り付け金具をラックに取り付けます。RMX をラックの取り付け金具の上に載せます。RMX の前面の取り付け金具にある4つの穴からねじで RMX をラックに固定します。



- **シェルフを使用する** - ラックの製造業者から提供されたシェルフをラックに取り付けます。RMX をシェルフの上に載せます。RMX の前面の取り付け金具にある4つの穴からねじで RMX をラックに固定します。



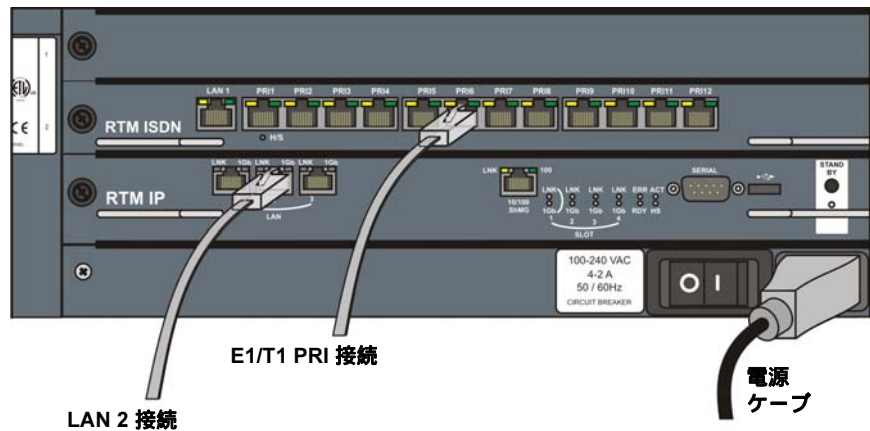
## ケーブルの接続



LAN 1、LAN 3 および ShMG ポートから保護キャップを取り外さないでください。

次のケーブルをバックパネルに接続します。

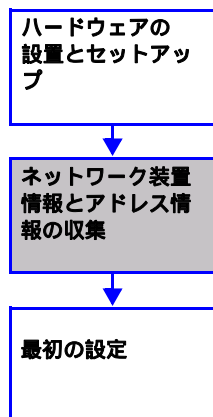
- 電源ケーブル
- LAN 2 ポートへの LAN ケーブル
- PRI ポートへの E1/T1 ケーブル



特に高速ビットレートでの通話環境では、会議の性能を最大限にするために、1Gb の接続をお勧めします。

## ネットワーク装置情報およびアドレス情報の収集

### IP サービス



RMX、その管理アプリケーション、および会議デバイス間の通信を可能にする IP アドレスとネットワークパラメーターは、次の 2 つの IP サービスに分類されます。

- 管理ネットワーク (コントロールユニット)
- デフォルトの IP サービス (会議サービス)

最初の設定を行うときに、これら 2 つのネットワークサービスのパラメーターをローカルネットワークの設定に適合するように変更します。

#### 管理ネットワーク

管理ネットワークでは、RMX コントロールユニットと *RMX Web Client* の通信が可能です。このネットワークは、RMX を管理するために使用されます。

RMX の出荷時のデフォルトの IP アドレスを表 2-1 に示します。

#### デフォルトの IP サービス (会議サービス)

デフォルトの IP サービス (会議サービス) は、RMX と会議デバイス間の通信を設定および管理するために使用されます。

#### IP ネットワークサービスの必須情報

RMX ユニットを設置する際は、ローカルネットワーク設定に合わせて、これらのデフォルト IP アドレスを変更する必要があります。したがって、初めて RMX ユニットの電源を入れる前に、表の **ローカルネットワーク設定** の項を埋めるのに必要な情報をネットワーク管理者から入手

することが重要です。ネットワーク管理者は、1 枚の MPM カードを備えた MCU にはローカルネットワークの 4 つの IP アドレスを、2 枚の MPM カードを備えた MCU には 5 つの IP アドレスを割り当てる必要があります。

**表 2-1** ネットワーク装置情報およびアドレス情報

パラメーター	出荷時デフォルト	ローカルネットワーク設定
コントロールユニット IP アドレス	192.168.1.254	
コントロールユニットのサブネットマスク	255.255.255.0	
デフォルトのルーター IP アドレス	192.168.1.1	
シェルフ管理 IP アドレス	192.168.1.252	
シグナリングホスト IP アドレス	-	
メディアボード IP アドレス (MPM 1)	-	
メディアボード IP アドレス (MPM 2)	-	
ゲートキーパー IP アドレス (オプション)	-	
DNS IP アドレス (オプション)	-	
SIP サーバ IP アドレス (オプション)	-	

## ISDN/PSTN サービス

ISDN/PSTN ネットワークサービスは、ISDN/PSTN スイッチの設定と、ISDN/PSTN スイッチから RMX に取り付けられた ISDN カードまでの ISDN 回線の設定を定義するために使用されます。

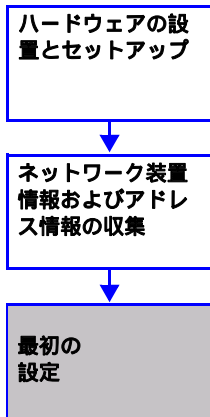
ISDN/PSTN ネットワークサービスを設定する前に、ISDN/PSTN サービスプロバイダから次の情報を入手してください。

- 切り替えタイプ
- 回線符号化およびフレーミング
- 番号プラン
- 番号タイプ
- ダイヤルイン番号範囲



RMX が公衆 ISDN ネットワークに接続されている場合は、外部 CSU または類似の装置が必要です。

## 最初の設定



新規の RMX をセットアップするには、4 つの手順を実行する必要があります。これらの手順は、次の順序で実行することが重要です。

- 1 製品の登録
- 2 出荷時デフォルトの管理ネットワーク設定の変更
- 3 初回の電源投入と MCU への接続
- 4 デフォルトの IP および ISDN/PSTN サービス設定の変更 ( 最初の設定ウィザード )

### 手順 1: 製品の登録

RMX を使用できるようにするには、製品を登録してアクティベーションキーを入手する必要があります。

初回の電源投入時に、製品アクティベーションダイアログボックスが表示され、アクティベーションキーを入力するよう求められます。

#### アクティベーションキーの入手

- 1 次の Polycom Web サイトの *Service & Support* ページにアクセスします。  
<http://portal.polycom.com>
- 2 *Email* アドレスとパスワードでログインするか、新しいユーザとして登録します。
- 3 **Product Registration** を選択します。
- 4 *Product Registration* および *Product Activation* の画面の指示に従います (RMX のシリアル番号は、ユニットの背面のシールにあります。必要に応じて参照してください)。
- 5 製品のアクティベーションキーが表示されたら、それを書き留めるかコピーして、後で製品アクティベーションダイアログボックスの

アクティベーションキーフィールドに貼り付けられるようにしておきます。

## 手順 2: 出荷時デフォルトの管理ネットワーク設定の変更

### 管理ネットワークの定義

管理ネットワークの定義は、次の2つの方法で行うことができます。

- **USB キー (推奨される方法)** - システムには USB キーが付属しており、コントロールユニットとシェルフ管理のデフォルトの IP アドレスが格納されています。

これらのデフォルトは、最初に PC で変更し、次に RMX にアップロードします。

- **直接接続** - RMX とコンピュータの間にプライベートネットワークを作成し、RMX Web Client の最初の設定ウィザードを使用して管理ネットワークのパラメーターを変更します。

詳細については、RMX 2000 Administrator's Guide の Appendix F: 「Configuring Direct Connections to RMX」(G-1 ページ) を参照してください。

### USB キーの設定の変更

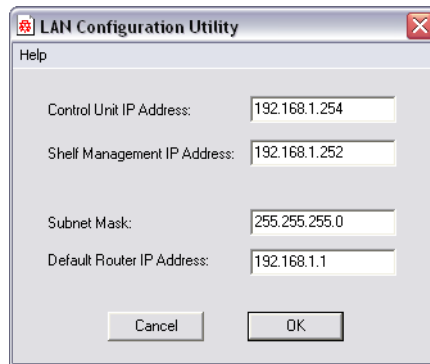
USB キーにはテキストファイルの *lan.cfg* が格納されており、これには出荷時デフォルトの IP アドレスパラメーターが保持されています。これらのパラメーターは、*LAN Configuration Utility* を使用してローカルネットワーク設定に合わせて変更する必要があります。また、USB キー上でも変更する必要があります。

USB キーの設定を変更するには

- 1 USB キーをワークステーションに接続し、*LanConfigUtility.exe* をダブルクリックしてユーティリティを起動します。

*LAN Configuration Utility* ダイアログボックスが開きます。



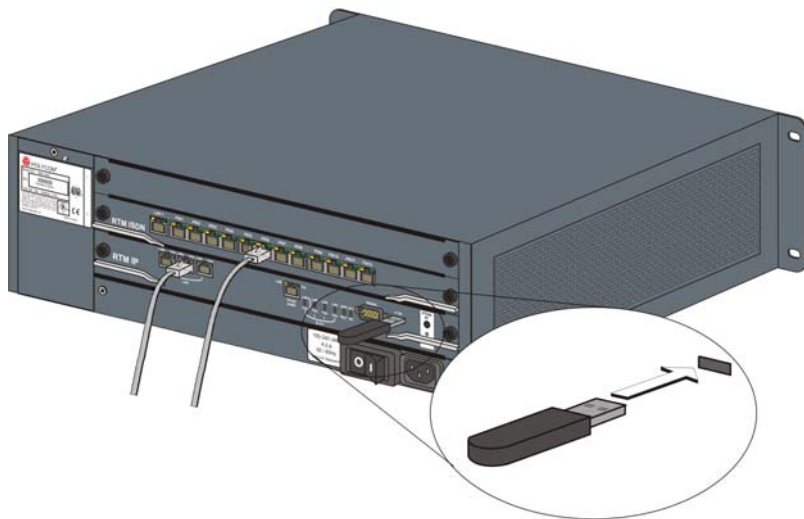


- 2 ネットワーク管理者から提供された情報を使用して、ユーティリティのダイアログボックスの次のパラメーターを変更します。
  - コントロールユニット IP アドレス
  - シェルフ管理 IP アドレス
  - サブネットマスク
  - デフォルトのルーター IP アドレス
- 3 OK をクリックします。

### 手順 3: 初回の電源投入と MCU への接続

USB キーを使用して初回の電源投入を行うには

- 1 変更済みの IP アドレスが格納された USB キーを RMX のバックパネルにある USB ポートに挿入します。



2 RMX の電源を入れます。

電源投入シーケンス中に、lan.cfg ファイルのパラメーターが USB キーから RMX のメモリにアップロードされ、適用されます。

初回の電源投入中、*管理*および *IP ネットワークサービス*の両方が定義されるまで RMX のフロントパネルの 赤色の ERR LED は ON のままです。

RMX の設定が完了すると ( *管理*および *IP ネットワークサービス*を含む)、システムエラーがなければ、(RMX のフロントパネルの) CNTL モジュールの緑色の RDY LED が ON になります。

3 USB キーを抜き取ります。

4 ワークステーションで *RMX Web Client* アプリケーションを起動します。

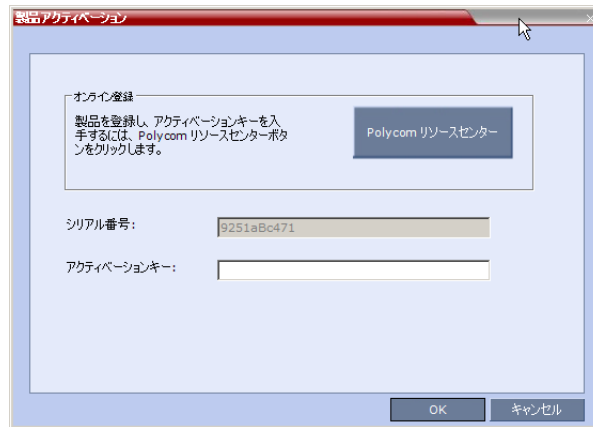
a ブラウザのアドレス行に、*コントロールユニット*の IP アドレスを次の形式で入力します。http://<コントロールユニット IP アドレス>。これは、USB キーで定義されているものと同じです。

b Enter キーを押します。

*RMX Web Client* のログイン画面が表示されます。

5 *RMX Web Client* のログイン画面で、デフォルトのユーザ名 (POLYCOM) とパスワード (POLYCOM) を入力し、**ログイン**をクリックします。

RMX Web Client が起動し、製品アクティベーションダイアログボックスが、下図のようにシリアル番号が入力された状態で表示されます。

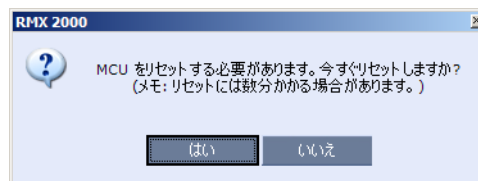


- 6 アクティベーションキーフィールドに、前の手順で入手した製品のアクティベーションキーを入力するか、貼り付けて、OK をクリックします。

アクティベーションキーを入手していない場合は、Polycom リソースセンターをクリックして、Polycom Web サイトの Service & Support ページにアクセスします。

詳細については、「アクティベーションキーの入手」(2-7 ページ) を参照してください。

再起動を求めるダイアログボックスが表示されます。



- 7 ダイアログボックスで、いいえをクリックします。

デフォルトの IP ネットワークサービスが定義されていないので、最初の設定ウィザードが自動的に起動します。

## 手順 4: デフォルトの IP サービスおよび ISDN/PSTN ネットワークサービス設定の変更

*最初の設定ウィザードでは、デフォルトの IP サービスを設定できます。このウィザードは、デフォルトの IP ネットワークサービスが定義されていない場合は自動的に起動します。この自動起動は、初回の電源投入時、サービスが定義される前、またはデフォルトの IP サービスを削除し、RMX を再起動した場合に発生します。*

*最初の設定ウィザードの IP 管理サービスタブは、出荷時デフォルトの管理 IP アドレスが変更されていない場合にのみ有効になります。*

## 最初の設定ウィザード

1 必須の IP 情報をダイアログボックスに入力します。

表 2-2 最初の設定ウィザード - IP シグナリング

フィールド	説明
ネットワークサービス名	最初の設定ウィザードによって、 <i>Default IP Service</i> という名前が IP ネットワークサービスに割り当てられます。この名前は変更できます <b>メモ:</b> このフィールドは、すべての IP シグナリングダイアログボックスで表示され、Unicode エンコーディングを使用する文字セットを含むことができます。
シグナリングホスト IP アドレス	エンドポイントから MCU にダイヤルインするときに使用するアドレスを入力します。 RMX からのダイヤルアウトは、このアドレスから開始されます。 このアドレスは、RMX をゲートキーパーまたは SIP プロキシサーバに登録するために使用されます。

表 2-2 最初の設定ウィザード - IP シグナリング ( 続き )

フィールド	説明
MPM 1 IP アドレス	ネットワーク管理者から入手した、MPM 1 および MPM 2 ( インストールされている場合 ) の IP アドレスを入力します。エンドポイントは、これらのアドレスを使用して会議に接続し、通話メディア ( ビデオ、音声、およびコンテンツ ) を送信します。
MPM 2 IP アドレス	
サブネットマスク	MCU のサブネットマスクを入力します。 デフォルト値は 255.255.255.0 です。



RMX で安全な通信が必要な場合には、最初の設定ウィザードを完了してログインし、証明書をインストールして安全な通信モードを有効にします。

- 2 次へをクリックします。
- 3 必須のルータ情報をダイアログボックスに入力します。

表 2-3 最初の設定ウィザード - ルータ

フィールド	説明
デフォルトのルーター IP アドレス	デフォルトのルータの IP アドレスを入力します。

- 4 次へをクリックします。
- 5 必須の DNS 情報をダイアログボックスに入力します。

ファブ設定ウィザード

> IP 管理サービス

> IP シグナリング

> ルータ

> DNS

> ネットワークタイプ

> ゲートキーパー

> SIP サーバ

> セキュリティ

> ISDN/PSTN

> PRI 設定

> スペック定義

> 電話

> スペック

> ビデオ/音声ポート

> システムフラグ

ネットワークサービス名: IP Network Service

MCU ホスト名: PolycomMCU

DNS: オフ

☐ ホスト名を DNS サーバに自動的に登録する

ローカルドメイン名:

プライマリ DNS サーバの IP アドレス: 0.0.0.0

戻る

次へ

キャンセル

表 2-4 最初の設定ウィザード - DNS

フィールド	説明
MCU ホスト名	ネットワーク上の MCU の名前を入力します。 デフォルトの名前は RMX です。

表 2-4 最初の設定ウィザード - DNS ( 続き )

フィールド	説明
DNS	次のように選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>オフ</b> - ネットワーク内で DNS サーバが使用されていない場合</li><li>・ <b>指定</b> - DNS サーバの IP アドレスを入力する場合</li></ul> <b>メモ</b> : IP アドレスのフィールドは、 <b>指定</b> を選択した場合にのみ有効になります。
ホスト名を DNS サーバに自動的に登録する	MCU シグナリングホストおよびシェルフ管理を DNS サーバに自動的に登録するには、このオプションを選択します。
ローカルドメイン名	MCU がインストールされたドメインの名前を入力します。
プライマリ DNS サーバの IP アドレス	プライマリ DNS サーバの静的 IP アドレス。

6 次へをクリックします。



- 7 IP ネットワークタイプを、H.323、SIP、または H.323 & SIP から選択します。

IP ネットワークタイプ: H.323, H.323 & SIP, SIP

- 8 次へをクリックします。
- 9 SIP を選択した場合のみ、ステップ 13 に進みます。
- 10 必須のゲートキーパー情報をダイアログボックスに入力します。

エリアス	タイプ
	なし
	なし
	なし
	なし
	なし

表 2-5 最初の設定ウィザード - ゲートキーパー

フィールド	説明
ゲートキーパー	ゲートキーパー IP アドレスの設定を有効にするには、 <b>指定</b> を選択します。 <b>オフ</b> を選択すると、すべてのゲートキーパーオプションが無効になります。
<b>プライマリゲートキーパー</b>	
IP アドレスまたは名前	ゲートキーパーのホスト名 (DNS サーバが使用されている場合) か、IP アドレスのいずれかを入力します。
ゲートキーパーの MCU プレフィックス	MCU が MCU 自身をゲートキーパーに登録するときに使用する文字列を入力します。 ゲートキーパーは通話を MCU に転送するとき、この文字列を使用して MCU を識別します。 H.323 エンドポイントは MCU にダイヤルするとき、ダイヤルイン文字列の一部としてこの番号を使用します。
<b>エイリアス</b>	
エイリアス	ネットワーク内の RMX のシグナリングホストを識別するエイリアス。各 RMX に最大 5 つのエイリアスを定義できます。 <b>メモ:</b> ゲートキーパーを指定する場合は、少なくとも 1 つのプリフィックスまたはエイリアスをこのテーブルに入力する必要があります。

表 2-5 最初の設定ウィザード - ゲートキーパー ( 続き )

フィールド	説明
タイプ	<p>タイプでは、カードのエイリアスがゲートキーパーに送信されるときに形式を定義します。各エイリアスのタイプは異なってもかまいません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• H.323 ID ( 英数字 ID )</li> <li>• E.164 ( 数字の 0 ~ 9、*、# )</li> <li>• Email ID ( 電子メールアドレス形式、例 abc@example.com )</li> <li>• 参加者番号 ( 数字の 0 ~ 9、*、# )</li> </ul> <p><b>メモ:</b> すべてのタイプがサポートされていますが、使用されるエイリアスのタイプは、ご使用のゲートキーパーの機能によって異なります。</p>

- 11 次へをクリックします。
- 12 H.323 を選択した場合のみ、ステップ 15 に進みます。
- 13 必須の SIP サーバ情報をダイアログボックスに入力します。

表 2-6 最初の設定ウィザード - SIP サーバ

フィールド	説明
SIP サーバ	次のように選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>指定</b> - SIP サーバを手動で設定する場合</li> <li>• <b>オフ</b> - ネットワーク内に SIP サーバが存在しない場合</li> </ul>
SIP サーバ IP アドレス	優先する SIP サーバの IP アドレスまたはホスト名 (DNS サーバが使用されている場合) のいずれかを入力します。
トランスポートタイプ	SIP サーバでサポートされるプロトコルに基づいて、MCU と SIP サーバまたはエンドポイントの間のシグナリングに使用するプロトコルを選択します。 <b>UDP</b> - シグナリングに UDP を使用するには、このオプションを選択します。 <b>TCP</b> - シグナリングに TCP を使用するには、このオプションを選択します。 <b>TLS</b> - シグナリングホストは、安全なポートである 5061 のみで受信し、すべての発信接続は安全な接続上に確立されます。SIP クライアントまたはサーバからの安全でないポートへの通話は拒否されます。
トランスポートタイプ ( 続き )	次のプロトコルがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• TLS 1.0</li> <li>• SSL 2.0</li> <li>• SSL 3.0</li> </ul>

14 次へをクリックします。

必須の**セキュリティ**情報をダイアログボックスに入力します。

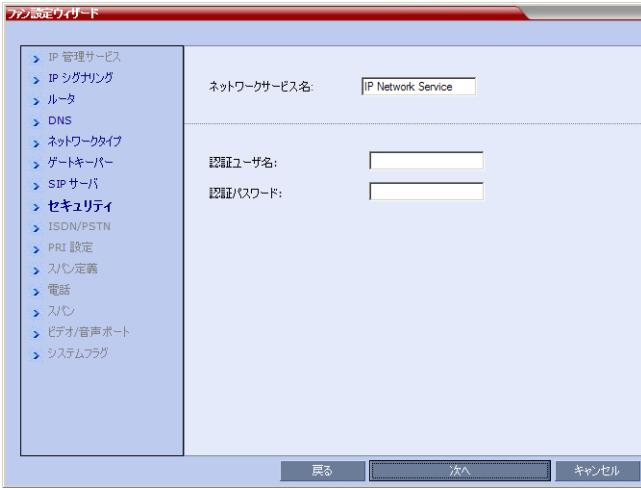
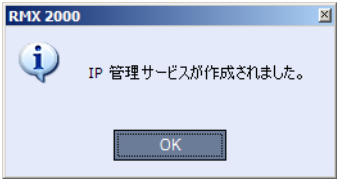


表 2-7 最初の設定ウィザード - セキュリティ

フィールド	説明
認証ユーザ名	会議、エントリキュー、またはミーティングルームの名前を、プロキシに登録されているとおりに入力します。 このフィールドには、最大 20 の ASCII 文字を入力できます。
認証パスワード	会議、エントリキュー、またはミーティングルームのパスワードを、プロキシで定義されているとおりに入力します。 このフィールドには、最大 20 の ASCII 文字を入力できます。

15 次へをクリックします。

IP ネットワークサービスが作成されたことが示されます。



16 OK をクリックします。

初期の RMX セットアップ中に RTM ISDN カードの存在が検出されると、**最初の設定ウィザード**の ISDN /PSTN ネットワークサービス定義画面が有効になります。

RMX に RTM ISDN カードがない場合、また *ISDN/PSTN* ネットワークサービスを定義しない場合は、**ステップ 32**に進みます。

**最初の設定ウィザード**の ISDN/PSTN 設定シーケンスは、*ISDN/PSTN* ダイアログボックスから始まります。

17 次のパラメーターを定義します。

**表 2-8**      **最初の設定ウィザード - ISDN サービス設定**

フィールド	説明
ネットワークサービス名	<p>サービスプロバイダ (キャリア) 名またはその他の任意の名前を 20 文字以内で指定します。ネットワークサービス名により、ISDN/PSTN サービスはシステムで識別されます。</p> <p>デフォルトの名前: ISDN/PSTN サービス</p> <p><b>メモ:</b> このフィールドは、すべての ISDN/PSTN ネットワーク設定タブで表示され、Unicode エンコーディングを使用する文字セットを含むことができます。</p>

表 2-8 最初の設定ウィザード - ISDN サービス設定

フィールド	説明
スパンタイプ	<p>サービスプロバイダから提供された、RMX に接続されているスパン (ISDN/PSTN) 回線のタイプを選択します。各スパンは、それぞれ別のネットワークサービスとして定義することができます。または、同一キャリアから提供されたすべてのスパンを同一ネットワークサービスの一部として定義することができます。</p> <p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>T1</b> (米国 23 本の B チャンネル + 1 本の D チャンネル)</li> <li>• <b>E1</b> (欧州 30 本の B チャンネル + 1 本の D チャンネル)</li> </ul> <p>デフォルト : T1</p> <p><b>メモ :</b> RMX でサポートされるのは、1 つの スパンタイプ (E1 または T1) だけです。最初のスパンをタイプ E1 として定義した場合、後で定義するその他のスパンもすべてタイプ E1 とする必要があります。</p>
サービスタイプ	<p>サポートされるサービスタイプは PRI のみです。自動的に選択されます。</p>

18 **次へ**をクリックします。

PRI 設定ダイアログボックスが開きます。

19 次のパラメーターを定義します。

表 2-9 最初の設定ウィザード - PRI 設定

フィールド	説明
デフォルトの番号タイプ	デフォルトの番号タイプをリストから選択します。 番号タイプは、システムによるダイヤル番号の処理方法を定義します。たとえば、8 桁のダイヤル番号を入力する場合、それが国内であるか国際であるかが番号タイプによって決まります。 PRI 回線がネットワークスイッチを介して RMX に接続されている場合、番号タイプでの選択内容は特定の PRI 回線への通話をルーティングするために使用されます。ダイヤル番号をネットワークで解釈させて通話をルーティングする場合は、 <b>不明</b> を選択します。 デフォルト：不明 <b>メモ：</b> E1 スパンの場合、このパラメーターはシステムによって設定されます。



表 2-9 最初の設定ウィザード - PRI 設定 ( 続き )

フィールド	説明
番号プラン	<p>サービスプロバイダから入手した情報に従って、シグナリングのタイプ ( 番号プラン ) をリストから選択します。</p> <p>デフォルト : ISDN</p> <p><b>メモ :</b> E1 スパンの場合、このパラメーターはシステムによって設定されます。</p>
ネットワークの種類	<p>サービスプロバイダ ( キャリア ) によってサービスプログラムが使用されている場合は、適切なサービスプログラムを選択します。</p> <p>サービスプロバイダによっては、使用できるサービスプログラムを数個持っている場合があります。</p> <p>デフォルト : なし</p>
ダイヤルアウトプリフィックス	<p>PBX がダイヤルアウトするために必要なプリフィックスを入力します。ダイヤルアウトプリフィックスが不要な場合は、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>このフィールドは空白にするか、<b>0 ~ 9999</b> の数値を入力できます。</p> <p>デフォルト : 空白</p>

20 **次へ**をクリックします。

スパン定義ダイアログボックスが開きます。

スパン定義ウィザード

> IP 管理サービス  
> IP シグナリング  
> ルータ  
> DNS  
> ネットワークタイプ  
> ゲートキーパー  
> SIP サーバ  
> セキュリティ  
> ISDN/PSTN  
> PRI 設定  
> **スパン定義**  
> 電話  
> スイッチ  
> ビデオ/音声ポート  
> システムフラグ

ネットワークサービス名:

フレーミング:

サイド:

回線符号化:

切り替えタイプ:

戻る 次へ キャンセル

21 次のパラメーターを定義します。

表 2-10 最初の設定ウィザード - スパン定義

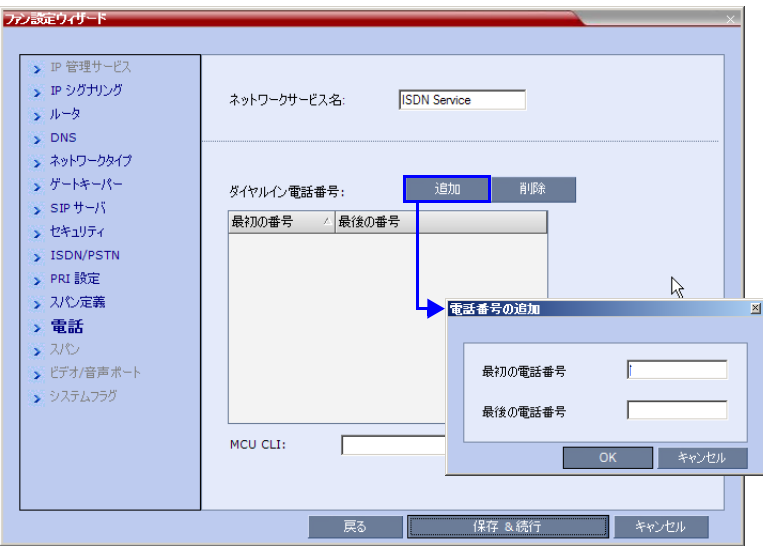
フィールド	説明
フレーミング	キャリアがネットワークインターフェース用に使用するフレーミングフォーマットをリストから選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• T1 スパンの場合、デフォルトは SFSF です。</li><li>• E1 スパンの場合、デフォルトは FEBE です。</li></ul>
サイド	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ユーザサイド (デフォルト)</li><li>• ネットワークサイド</li><li>• 同期サイド</li></ul> <p><b>メモ:</b> PBX がネットワークサイドで設定されている場合は RMX ユニットをユーザサイドとして設定する必要があり、PBX がユーザサイドで設定されている場合は RMX ユニットをネットワークサイドとして設定する必要があります。あるいは、どちらも対称的に設定する必要があります。</p>

**表 2-10** 最初の設定ウィザード - スパン定義

フィールド	説明
回線符号化	PRI の回線符号化方式をリストから選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• T1 スパンの場合、デフォルトは B8ZS です。</li><li>• E1 スパンの場合、デフォルトは HDB3 です。</li></ul>
切り替えタイプ	サービスプロバイダの電話局に設置されたスイッチ装置のブランドとリビジョンレベルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• T1 スパンの場合、デフォルトは AT&amp;T 4ESS です。</li><li>• E1 スパンの場合、デフォルトは EURO ISDN です。</li></ul>

22 **次へ**をクリックします。

電話ダイアログボックスが開きます。



- 23 **追加**をクリックして、ダイヤルイン番号の範囲を定義します。  
電話番号の追加ダイアログボックスが開きます。
- 24 次のパラメーターを定義します。

**表 2-11** 最初の設定ウィザード - 電話番号の追加

フィールド	説明
最初の番号	電話番号範囲の最初の番号。
最後の番号	電話番号範囲の最後の番号。



番号が 1000 個を超える範囲にすることはできません。

- 25 **OK** をクリックします。  
新しい範囲がダイヤルイン電話番号テーブルに追加されます。
- 26 **オプション**。ステップ 23 ~ 24 を繰り返して、追加のダイヤルイン範囲を定義します。
- 27 **電話**タブで、**MCU CLI** (Calling Line Identification) を入力します。

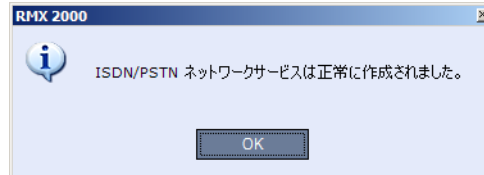
ダイヤルイン接続では、MCU CLI は参加者がダイヤルする MCU の番号を示します。ダイヤルアウト接続では、参加者に表示される MCU (CLI) 番号を示します。

28 **保存 & 続行**をクリックします。

**保存 & 続行**をクリックすると、**戻る**ボタンを使用して前の設定ダイアログボックスに戻ることができなくなります。

ISDN/PSTN ネットワークサービスが作成され、ISDN/PSTN ネットワークサービスのリストに追加されます。

システムが ISDN/PSTN ネットワークサービスを作成できない場合は、原因を示すエラーメッセージが表示されます。このメッセージから、**最初の設定ウィザード**の適切なダイアログボックスにアクセスし、修正作業を行うことができます。

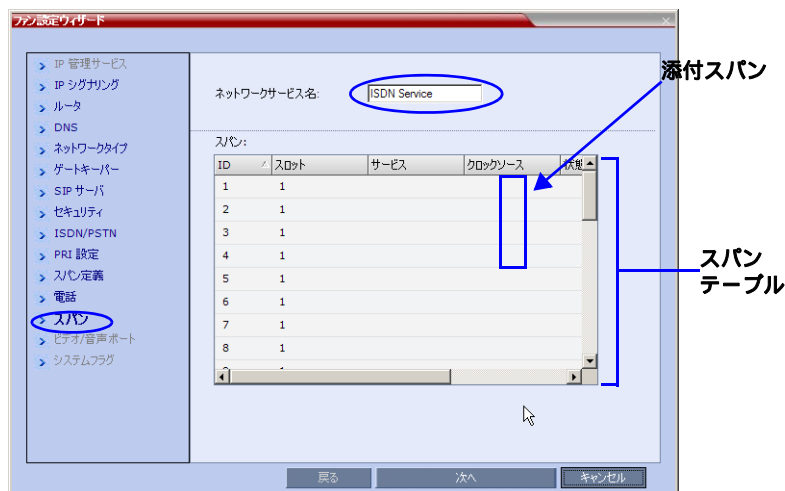


29 **OK** をクリックして、設定を続行します。

スパンダイアログボックスが開き、次の読み取り専用フィールドが表示されます。

- **ID** - ISDN RTM カード上のコネクタ (PRI1 ~ PRI12)。
- **スロット** - ISDN RTM カードの接続先 (MPM 1 または MPM 2) の MPM ボード
- **サービス** - スパンが割り当てられている ISDN/PSTN ネットワークサービス。
- **クロックソース** - ISDN シグナリング同期がプライマリまたはセカンダリのクロックソースによって提供されているかどうかを示します。最初に同期化するスパンがプライマリクロックソースになります。

- **状態** - スパンのシステムアラートレベル (重要、軽度)。



- 30 添付フィールドのチェックボックスをクリックにして、スパン (E1 回線または T1 PRI 回線) を、ネットワークサービス名フィールドに示されているネットワークサービスに添付します。

スパンテーブルに、システム内のすべてのスパンとすべての ISDN ネットワークサービスの設定が表示されます。

最初の設定で最初の設定ウィザードを使用するとき、システム内で最初の ISDN/PSTN ネットワークサービスを定義します。スパンは、このサービスにしか添付できません。

RMX Web Client で ISDN/PSTN ネットワークサービス > 新規 PSTN サービスボタンを使用して、追加の ISDN/PSTN ネットワークサービスを定義できます。

RMX Web Client で ISDN/PSTN ネットワークサービス > ISDN Properties > スパンタブを使用して、ISDN ネットワークサービス間でスパンを添付したり、移動したりできます。

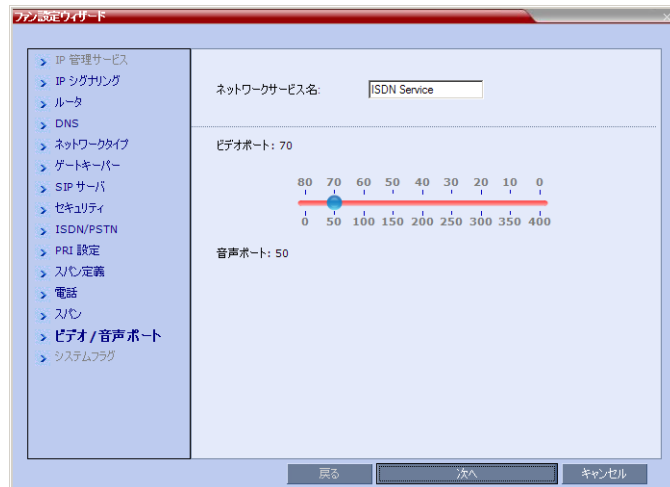
各 ISDN RTM カードは、7 本の E1 回線または 9 本の T1 PRI 回線をサポートできます (同時に使用することはできません)。

- 31 次へをクリックします。

ビデオ/音声ポート設定ダイアログボックスが表示されます。

### 32 スライダーを移動して、ビデオ / 音声設定を変更します。

ビデオポートを音声ポートに変換して、システムのリソースを最大限に活用できます。



ダイアログボックスに表示されるビデオポート (CIF) の最大数は、ライセンスキーから取得されます。この数だけを音声ポートに変換できます。

スライダーは2の倍数で移動し、ビデオポート2個ずつをグループにして音声ポートに変換し、各ビデオポートを5個の音声ポートに変換します。割り当てられる音声ポートの最小数は10 (2 ビデオポート × 5 音声ポート / ビデオポート) です。

使用可能なポートはすべて、最初は CIF 解像度のビデオポートとして割り当てられます。

### 33 次へをクリックします。

システムフラグダイアログボックスが表示されます。

34 必須のシステムフラグ情報をダイアログボックスに入力します。

**表 2-12** 最初の設定ウィザード - システムフラグ

フィールド	説明 / デフォルト	
会議 ID 長 (MCU 割り当て)	MCU によって割り当てられる 会議 ID の桁数。 範囲：2 ～ 16 ( デフォルト：5)	メモ：2 桁を選択すると、同時に進行する 会議が 99 件に制限され ます。
最小会議 ID 長 ( ユーザサ イド)	数字 ID を会議に手動で割り当 てるときにユーザが入力しな ければならない最小の桁数。 範囲：2 ～ 16 ( デフォルト：4)	
最大会議 ID 長 ( ユーザ割 り当て)	数字 ID を会議に手動で割り当 てるときにユーザが入力でき る最大の桁数。 範囲：2 ～ 16 ( デフォルト：8)	
MCU 表示名	MCU 名は、エンドポイントの画面に表示されます。 デフォルトの名前：Polycom RMX 2000	



表 2-12 最初の設定ウィザード- システムフラグ ( 続き )

フィールド	説明 / デフォルト
議長退席時に 会議を終了す る	はい ( デフォルト ) を選択すると、他に接続されている参加者がいる場合でも、議長が退席したときに会議が終了します。 いいえを選択すると、会議はあらかじめ決められていた終了時刻か、すべての参加者が会議から切断したときに自動的に終了します。
会議時間の自 動延長	はい ( デフォルト ) を選択すると、接続されている参加者がいて使用可能なリソースがある限り、RMX で実行されている会議が自動的に延長されます。 MCU によって許可される最大延長時間は 30 分です。

これらのフラグは、必要に応じて後で変更することができます。それには、セットアップメニューからシステム設定オプションを選択します。詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「System Configuration」(12-11 ページ) を参照してください。

- 35 **保存 & 閉じる** をクリックします。  
正常に設定されたことが示されます。
- 36 *Success Message* ボックスで、**OK** をクリックします。
- 37 *Reset Confirmation* ダイアログボックスで、**はい** をクリックします。
- 38 「システムがリセットされるまでお待ちください」というメッセージボックスで、**OK** をクリックします。



システムの再起動は、5 分程度かかることがあります。

- 39 ログイン画面が表示されるまで、ブラウザをリフレッシュ機能で何回か更新してください。
- 40 ログイン画面が表示されたら、ユーザ名とパスワードを入力し、**ログイン** をクリックします。  
初めての入力では、デフォルトのユーザ名とパスワードはどちらも **POLYCOM** です。
- 41 **管理者**の権限を持つユーザを新規作成して、デフォルトユーザ (**POLYCOM**) を削除します。

セキュリティを確保するため、このステップを実行し終わるまで、システムは完全に設定されません。

システムが完全に設定された状態で、システムエラーがなければ、(RMX のフロントパネルの) CNTL モジュールの緑色の RDY LED が ON になります。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*Users, Connections and Notes*」(8-1 ページ)を参照してください。

## RMX Web Client 言語の選択

デフォルトでは、RMX Web Client インターフェイスは英語でのみ表示されます。ただし、システム管理者はログイン画面で利用できる言語を選択することができます。これらの言語はフラグによって表されます。

ログイン画面の言語設定を選択するには

- 1 RMX メニューで**設定 > 他言語設定**を選択します。
- 2 RMX Web Client のログイン画面に表示する言語のチェックボックスをクリックします。詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*Multilingual Setting*」(12-42 ページ)を参照してください。  
選択した言語がブラウザまたはワークステーションのオペレーティングシステムでサポートされていない場合、RMX Web Client は英語で表示されます。
- 3 OK をクリックします。
- 4 RMX からログアウトして、再接続します。  
ログイン画面に選択した言語のフラグが表示されます。

## ユーザ定義

RMX は、POLYCOM という名称のデフォルトの管理者が設定された状態で出荷されています。他の承認済み管理者ユーザを定義したら、デフォルトのユーザを削除して承認を受けていないユーザがシステムにログインするのを防止することをお勧めします。

ユーザ定義の詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* を参照してください。

## RMX のデフォルトの会議設定

RMX は、デフォルトの会議エンティティが用意された状態で出荷されます。RMX ユーザおよび参加者は、これらのエンティティを使用して、それ以上設定することなく、開催中の会議を開始できます。

デフォルトの会議エンティティは次のとおりです。

**表 2-13**      会議エンティティ

エンティティ	説明										
ミーティングルーム	<p>リソースを使用することなく MCU に保存される会議。最初の参加者がダイヤルインしたときにアクティブになります。</p> <p>次の 4 つのミーティングルームがあらかじめ用意されています。</p> <table> <tr> <td><b>名前</b></td><td><b>ID</b></td></tr> <tr> <td><i>Maple_Room</i></td><td><i>1001</i></td></tr> <tr> <td><i>Oak_Room</i></td><td><i>1002</i></td></tr> <tr> <td><i>Juniper_Room</i></td><td><i>1003</i></td></tr> <tr> <td><i>Fig_Room</i></td><td><i>1004</i></td></tr> </table> <p>各ミーティングルームには、<i>Factory Video Profile</i> と呼ばれる 384Kbps で実行されるデフォルトの会議プロファイルが使用され、デフォルトの会議時間は 1 時間です。</p>	<b>名前</b>	<b>ID</b>	<i>Maple_Room</i>	<i>1001</i>	<i>Oak_Room</i>	<i>1002</i>	<i>Juniper_Room</i>	<i>1003</i>	<i>Fig_Room</i>	<i>1004</i>
<b>名前</b>	<b>ID</b>										
<i>Maple_Room</i>	<i>1001</i>										
<i>Oak_Room</i>	<i>1002</i>										
<i>Juniper_Room</i>	<i>1003</i>										
<i>Fig_Room</i>	<i>1004</i>										
会議プロファイル	<p><b>名前:</b>     <i>Factory Video Profile</i></p> <p>会議プロファイルは、ミーティングルームに割り当てられ、回線速度やビデオ解像度などの会議パラメータを定義します。</p> <p><i>Factory Video Profile</i> には、ビットレートが 384Kbps のビデオ会議パラメータ、<i>自動レイアウト</i>、および <i>Polycom Skin</i> が含まれています。このプロファイルでは、<i>会議 IVR サービス</i>と呼ばれる IVR サービスが使用されます。</p>										
会議 IVR サービス	<p><b>名前:</b>     <i>会議 IVR サービス</i></p> <p>会議 IVR サービスには、オプションのビデオスライドと、参加者の接続プロセス中および会議中に再生されるすべての音声メッセージが含まれています。</p> <p>会議 IVR サービスには、英語の一連の音声プロンプトとオプションのビデオスライドが含まれています。</p> <p>このサービスにより、参加者の会議への接続が自動化されます。</p>										

表 2-13 会議エンティティ ( 続き )

エンティティ	説明
エントリーキュー	<p><b>名前</b>                      <b>ID</b>  <i>DefaultEQ</i>                      1000</p> <p>エントリーキューを使用すると、1つのダイヤルイン番号をすべての会議に使用できます。参加者はエントリーキューで、目的の会議へのルーティングされるための情報を入力するよう求められます。  <i>DefaultEQ</i> と呼ばれるデフォルトのエントリーキューが用意されています。</p> <p>デフォルトのエントリーキューは、Ad Hoc 会議にも設定されています。参加者は、MCU で現在開催中の会議で使用されていない会議 ID またはミーティングルーム ID を入力することで、あらかじめ定義していなくても、新しく会議を開始できます。エントリーキュー IVR サービスと呼ばれるエントリーキュー IVR サービスが使用されます。</p> <p>エントリーキューに接続すると、参加者のエンドポイントにデフォルトのようこそスライドが表示され、デフォルトのミーティングルームがリストされます。参加者は、いずれかのミーティングルームを選択するか、別の ID を入力して新しい会議を開始することができます。</p> <p><b>メモ:</b> ISDN/PSTN ダイヤルイン番号は、ネットワークサービスで定義されるダイヤルイン番号の範囲に属するため、エントリーキューには割り当てられません。ISDN または PSTN 参加者の接続をエントリーキューに対して有効にするには、手動で割り当てる必要があります。詳細については、RMX 2000 Administrator's Guide の「<i>ISDN/PSTN Network Services</i>」(9-24 ページ) を参照してください。</p>
エントリーキュー IVR サービス	<p><b>名前:</b>    エントリーキュー IVR サービス</p> <p>参加者に MCU への接続プロセスを示し、参加者を目的の会議にルーティングするために使用されるすべての音声メッセージおよびビデオスライドが含まれています。  エントリーキュー IVR サービスは、デフォルトのエントリーキュー用に提供されるデフォルトのエントリーキュー IVR サービスです。</p>

## RMX のデフォルト会議設定のカスタマイズ

会議エンティティは、独自の要件に合わせてカスタマイズできます。

- さまざまな組織、ユーザ、言語などに合わせて**音声プロンプトやビデオスライドをカスタマイズするには**、まず必要なメッセージを録音し、ビデオスライドを作成してから、適切な会議 IVR サービスまたはエントリーキュー IVR サービスを作成します。

作成したサービスは、適切な会議プロファイルまたはエントリーキューに割り当てる必要があります。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*IVR Services*」(10-1 ページ)を参照してください。

- 会議ビットレート、会議に固有のビデオレイアウト、ビデオ表示に使用する背景 (スキン) など、**会議設定を変更するには**、新しい会議プロファイルを作成します。

このプロファイルは、新しい開催中の会議、ミーティングルーム、および単一ダイヤルのエントリーキューを定義するために使用できます。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*Defining Profiles*」(1-7 ページ)を参照してください。

- 384 Kbps (デフォルトのエントリーキューの設定) 以外の回線速度で**参加者が単一ダイヤルエントリーキューに接続できるようにするには**、または、別の言語で音声メッセージを再生するには、新しいエントリーキューを作成します。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*Defining a New Entry Queue Service*」(10-24 ページ)を参照してください。

- あらかじめ定義した会議パスワードおよび議長パスワードで、組織内のユーザ向けに**ミーティングルームをパーソナライズできます** (セキュリティを強化するため)。それによって、権限のあるユーザだけに開催中の会議の開始を許可することができます。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*Meeting Rooms*」(2-1 ページ)を参照してください。

- 会議エンティティは、主に、事前の参加者定義がないダイヤルイン参加者向けに設計されています。MCU がダイヤルする参加者のリストが記述された**自分用のアドレス帳を作成できます**。一度定義された参加者は開催中の会議に追加できるので、再度定義する必要がありません。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「Address Book」  
(4-1 ページ) を参照してください。





# 基本操作

RMX Web Client を使用して実行される最も一般的な操作は、次のとおりです。

- 会議の開始、モニタリング、および管理
- 個人または**グループ**としての**参加者**および**エンドポイント**のモニタリングと管理
  - **参加者**- エンドポイントを使用して会議に接続する個人。ルームシステムを使用する場合は、複数の参加者が1つのエンドポイントを使用します。
  - **エンドポイント**- 電話をかけることができ、MCU または他のエンドポイントからの電話を受けることのできるハードウェアデバイスまたはデバイスセット。たとえば、電話、PC に接続されたカメラとマイク、統合型ルームシステム（会議システム）などがエンドポイントです。
  - **グループ**- 共通の名前を持つ参加者またはエンドポイントの集合。

## RMX Web Client の起動

始める前に、システム管理者から次の情報を入手する必要があります。

- ユーザ名
- パスワード
- MCU コントロールユニットの IP アドレス

RMX Web Client を起動するには

- 1 ブラウザのアドレス行に次のように入力します。http://< **コントロールユニットの IP アドレス** >。入力したら、Enter キーを押しま

す。  
ログイン画面が表示されます。



言語を示すフラグは、管理者が *RMX Web Client* の代替言語を選択した場合にのみ表示されます。デフォルトのログイン画面にはフラグはありません。

- 2 **オプション**: 国旗をクリックして、英語以外の言語を選択します。



新しい言語を選択した場合、ログイン画面が更新され、選択した言語で表示されます。

選択した言語がブラウザまたはワークステーションのオペレーティングシステムでサポートされていない場合、*RMX Web Client* は英語で表示されます。詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*Multilingual Setting*」(12-42 ページ) を参照してください。

- 3 ユーザ名とパスワードを入力し、**ログイン**をクリックします。
- 初めての入力では、デフォルトのユーザ名とパスワードはどちらも **POLYCOM** です。
- RMX Web Client* のメイン画面が表示されます。

## RMX Web Client の画面コンポーネント

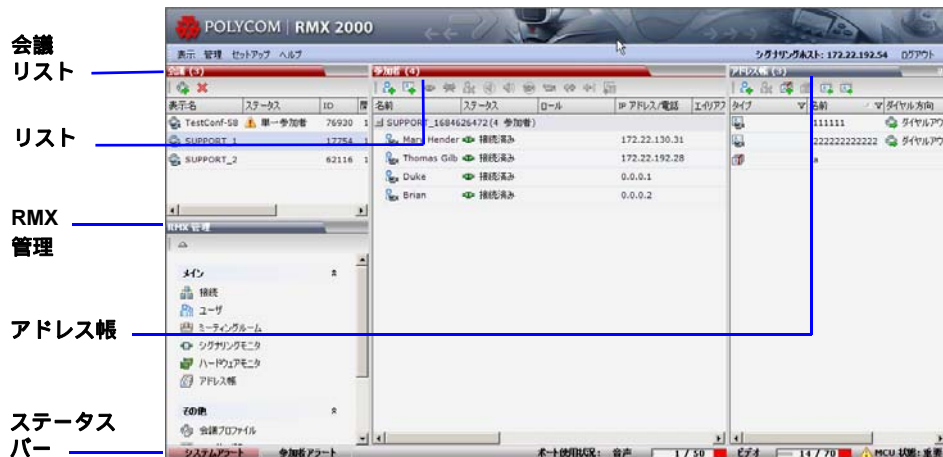
RMX Web Client のメイン画面は、次の 5 つのウィンドウで構成されます。

- 会議リスト
- リスト
- RMX 管理
- ステータスバー
- アドレス帳

議長、オペレーター、または管理者の権限を持つユーザとしてログインできます。使用できる表示とシステム機能は、認証レベルによって異なります。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「Users, Connections and Notes」(8-1 ページ) を参照してください。

管理者の場合の表示は、下図のようになります。



メイン画面はカスタマイズできます。詳細については、「メイン画面のカスタマイズ」(3-10 ページ) を参照してください。

## 表示およびシステム機能に関する許可

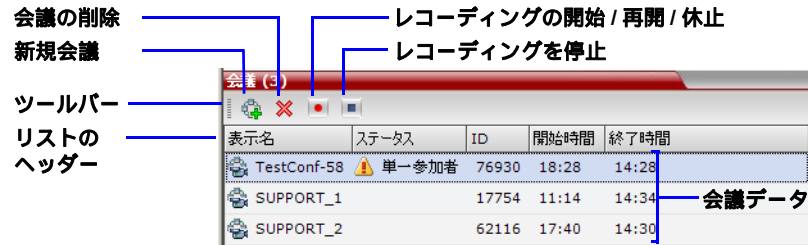
RMX Web Client ユーザが使用できる表示およびシステム機能は、各ユーザに割り当てられた認証レベルによって異なります。次の表に、認証レベルの要約を示します。

**表 3-1** 表示およびシステムに関する許可

	認証レベル		
	議長	オペレーター	管理者
	表示許可		
会議リスト	✓	✓	✓
リスト	✓	✓	✓
アドレス帳	✓	✓	✓
ステータスバー		✓	✓
RMX 管理		✓	✓
会議アラーム		✓	✓
会議ステータス		✓	✓
設定		✓	✓
	システム機能		
会議の開始	✓	✓	✓
会議のモニタリング	✓	✓	✓
参加者のモニタリング	✓	✓	✓
基本的な問題の解決		✓	✓
MCU 設定の変更			✓

## 会議リスト

会議ウィンドウには、MCU で現在実行されているすべての会議がステータス、会議 ID、開始時間、終了時間のデータとともにリストされます。



会議リストのツールバーには、次のボタンがあります。

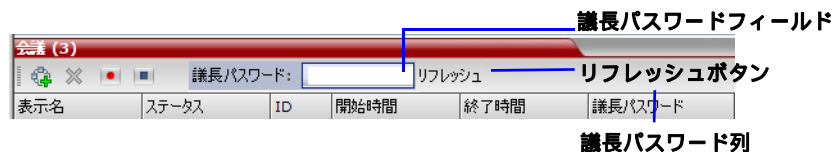
- **新規会議** - 新規開催中の会議を開始します。
- **会議の削除** - 選択した会議を削除します。

会議レコーディングが有効になっている場合には、以下が色付きで表示されます。

- **レコーディングの開始 / 再開** - レコーディングを開始 / 再開します。
- **レコーディングの停止** - レコーディングを停止します。
- **休止** - 開始 / 再開ボタンの切り替えを行います。

議長の権限を持つユーザとしてログインした場合は、次のようになります。

- 自分が開始した会議、パスワードを入力した会議、または議長パスワードが割り当てられていない会議のリストをモニタリングできます。
- 議長パスワードフィールドとリフレッシュボタンが表示されます。
- 議長パスワード列は、会議データに含まれます。



## リスト

リストウィンドウには、会議ウィンドウ または RMX 管理ウィンドウで選択した項目の詳細が表示されます。ウィンドウのタイトルは、選択した項目に応じて変更されます。



## RMX 管理

表示許可		
項目	オペレーター	権限
	✓	✓

RMX 管理ウィンドウには、RMX による会議の実行を可能にするために設定する必要のあるエンティティがリストされます。これらのパラメータを変更できるのは、管理者の権限を持つユーザのみです。

RMX 管理ウィンドウは、次の2つのセクションに分かれています。

- **メイン** - 頻繁に設定、モニタリング、または変更されるパラメータ。
- **その他** - 初期のシステムセットアップ時に設定され、その後ほとんど変更されないパラメータ。

## ステータスバー

RMX Web Client の下部のステータスバーには、システムアラートタブと参加者アラートタブがあります。また、ポート使用状況ゲージとMCU 状態インジケータもあります。



表示許可		
必須	オペレーター	権限値
	✓	✓

## システムアラート

システム問題のリストです。

システムアラートウィンドウは、ステータスバーの左隅にある**システムアラート**ボタンをクリックすると開閉できます。

アクティブアラーム

失敗リスト

システムアラート (2)						
ID	時間	カテゴリ	レベル	コード	説明	
2	23/08/2007	一般	重要	IP ネットワークサー	IP Network Service was modified. Please reset the MCU	
1	23/08/2007	一般	重要	Polycom デフォルト	Default user exists in Users list	

アクティブアラームおよび失敗リストの詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*System and Participant Alerts*」(12-7 ページ) を参照してください。

表示許可		
必須	オペレーター	権限値
✓	✓	✓

## 参加者アラート

接続問題が発生している参加者のリストです。会議別にソートされています。

参加者アラートウィンドウは、ステータスバーの左隅にある**参加者アラート**ボタンをクリックすると開閉できます。

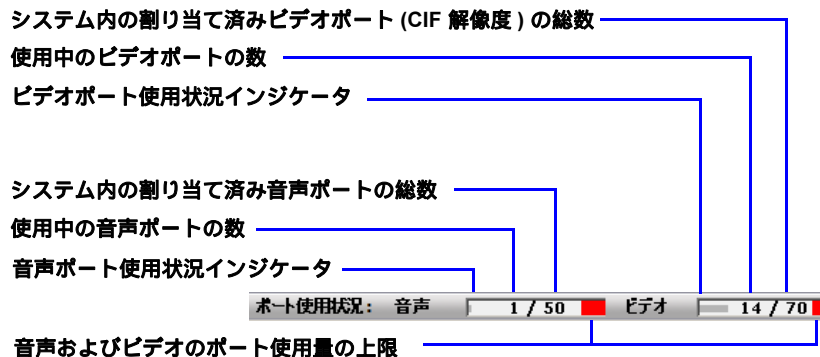
参加者アラート (2)								
会議	名前	ステータス	切断時間	ロール	IP アドレス/電話	エリアス名/SIP ア	ネットワーク	ダイヤル方法
test	1111	切断済み	09/10/2007 14		123		ISDN/PSTN	ダイヤル
test2	Duke	切断済み	17/10/2007 10		0.0.0.1		H.323	ダイヤル

表示許可		
必須	オペレーター	権限値
	✓	✓

## ポート使用状況ゲージ

ポート使用状況ゲージは、次のことを示します。

- ビデオ / 音声ポート設定に基づいた、システム内のビデオポートまたは音声ポートの総数。オーディオゲージは、管理者がオーディオポートを割り当てた場合のみ表示されます。割り当てていない場合は、ビデオポートゲージのみが表示されます。
- 使用中のビデオポートおよび音声ポートの数
- ポート使用量の上限






ポート使用量の上限しきい値は、使用できるビデオおよび音声ポートの総数の比率を表します。リソース使用量が最大に近づいているために、追加の会議を実行するために使用できるリソースがないときに表示されるように設定されています。ポート使用量がしきい値に到達した場合、またはしきい値を超えた場合、ゲージの赤色の部分が点滅し、システムアラートが生成されます。デフォルトのポート使用量しきい値は 80% ですが、システム管理者はこの値を変更できます。詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「Port Usage Gauges」(12-30 ページ) を参照してください。

表示許可		
監視	インジケータ	権限
✓	✓	✓

## MCU 状態

MCU 状態インジケータには、次のいずれかが表示されます。

-  **MCU 状態: STARTUP** - MCU は起動中です。
-  **MCU 状態: 正常** - MCU は正常に機能しています。
-  **MCU 状態: 重要** - MCU に大きな問題があります。MCU の動作に影響を及ぼす可能性があるため、注意が必要です。

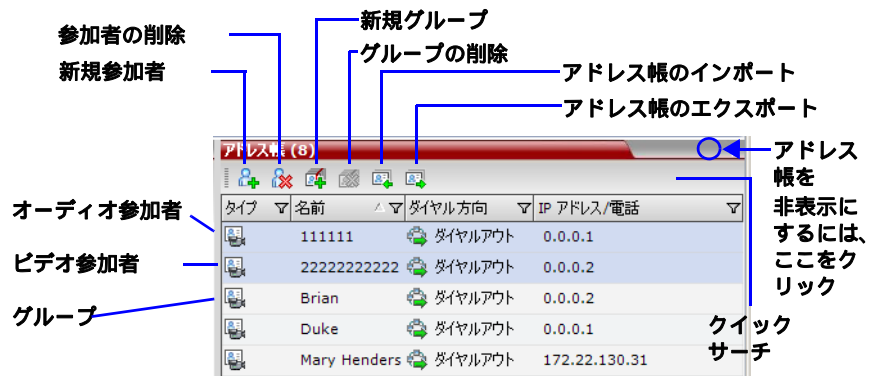
## アドレス帳

アドレス帳は、RMX に定義されている参加者およびグループのリストです。アドレス帳の情報を使用すると、RMX ユーザは簡単に参加者を会議に割り当てることができます。



アドレス帳ツールバーには、クイックサーチフィールドと次の6つのボタンがあります。

- 新規参加者
- 参加者の削除
- アドレス帳のインポート
- 新規グループ
- グループの削除
- アドレス帳のエクスポート



アドレス帳のエントリは、次のようにリストされます。

- **タイプ** 個人の参加者か、参加者のグループか。
- **名前** - 参加者の名前またはグループの名前。
- **ダイヤル方向** ダイヤルインまたはダイヤルアウト。
- **IP アドレス/電話** - 参加者の IP アドレスまたは電話。

## アドレス帳の表示と非表示

RMX Web Client に初めてアクセスすると、アドレス帳ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、アンカーピン (📌) ボタンをクリックすると非表示にすることができます。

アドレス帳ウィンドウが閉じ、画面の右上隅にタブが表示されます。

アドレス帳を再び表示するには、タブをクリックします。

アドレス帳を表示するにはタブをクリック




## メイン画面のカスタマイズ

メイン画面は、必要に応じてカスタマイズできます。ウィンドウサイズの変更、列幅の調整、およびデータリストの並べ替えが可能です。




ログインした各ユーザのカスタマイズ設定は、自動的に保存されます。RMX Web Client を次回起動したときのメイン画面の設定は、ユーザがアプリケーションを終了したときと同じになります。

ウィンドウのサイズを変更するには

- ➡ ウィンドウの境界上でポインタを動かし、ポインタの形が  になったら、ウィンドウの境界をクリックして必要なサイズまでドラッグします。その後、マウスボタンを放します。

列幅を調整するには

- 1 列ヘッダーの行で、列のフィールドを区切る縦棒の上にポインタを置きます。
- 2 ポインタの形が  になったら、フィールドを区切る縦棒をクリックして必要なサイズまでドラッグします。その後、マウスボタンを放します。

任意のフィールド (列ヘッダー) を基準にデータを並べ替えるには

- 1 会議リストまたはリスト表示のウィンドウで、並べ替えに使用するフィールドの列ヘッダーをクリックします。

▼ または ▲ が列ヘッダーに表示されます。これらの記号は、リストがこのフィールドで並べ替えられることを示すと同時に、並べ替え順序も示しています。

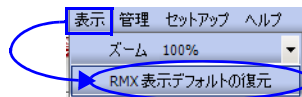
- 2 列ヘッダーをクリックして、その列の並べ替え順序を切り替えます。

ウィンドウ内の列の順序を変更するには

- ➡ 移動する列ヘッダーをクリックして、新しい場所にドラッグします。いくつかの赤色の矢印が表示され、列の新しい場所が示されたら、マウスボタンを放します。

RMX 表示ウィンドウをデフォルトの設定に戻すには

- ➡ RMX メニューの表示 > RMX 表示デフォルトの復元をクリックします。

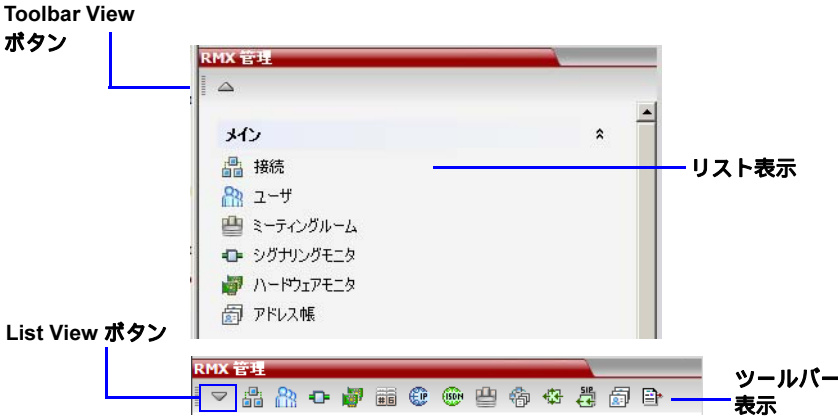


## RMX 管理ウィンドウのカスタマイズ

RMX 管理ウィンドウは、リストまたはツールバーのいずれかの形式で表示できます。

ツールバー表示とリスト表示を切り替えるには

- ➡ RMX 管理ウィンドウの *Toolbar View* ボタンをクリックして、ツールバー表示に切り替えます。
- ➡ ツールバー表示で、*List View* ボタンをクリックすると、リスト表示に戻ります。



頻繁に実行する操作や好みの *RXM Web Client* 使用方法に応じて、メインセクションとその他セクションの間で項目を移動できます。

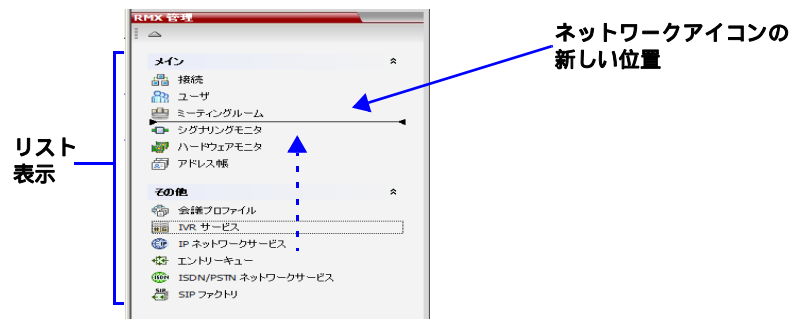
ツールバー表示では、すべての項目がアイコンで表示されるため、項目の移動が可能なのはリスト表示のみです。

メインセクションとその他セクションの間で項目を移動するには

- 1 RMX 管理ウィンドウで、移動する項目のアイコンをクリックし、ドラッグします。

指示線 (→) が表示され、アイコンの新しい位置が示されます。

- 2 アイコンが目的の位置に来たら、マウスボタンを放します。



メインセクションとその他セクションは、▼ ボタンおよび ▲ ボタンをクリックすると開閉できます。

## 会議の開始

次に示すように、会議を開始する方法はいくつかあります。

- 会議ウィンドウの **新規会議** ボタンをクリックする。
- ミーティングルームにダイヤルインする。
  - ミーティングルームは、MCU に保存された会議です。最初の参加者またはミーティング主催者のダイヤルインによってアクティブになるまで、受動モードのままです。

ミーティングルームの詳細については、Polycom RMX 2000 Administrator's Guide の「Meeting Rooms」(2-1 ページ) を参照してください。

- MCU へのアクセスポイントとして使用されている Ad Hoc エントリーキューにダイヤルインする。

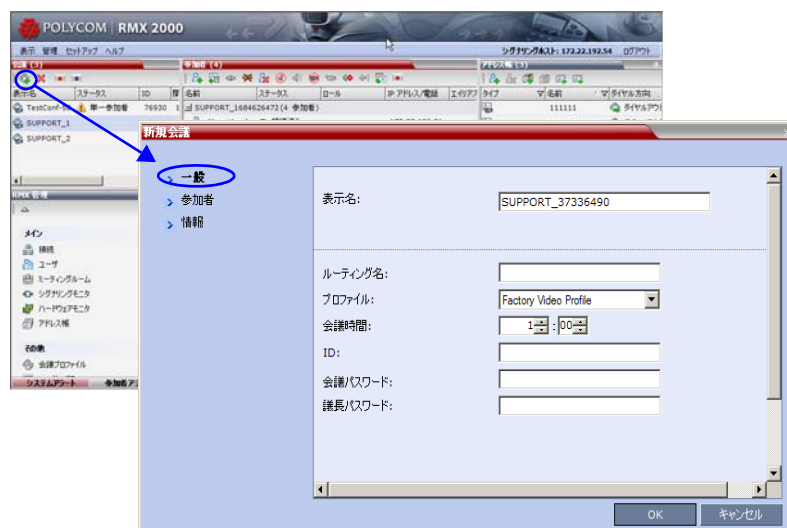
Ad Hoc エントリーキューの詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「Entry Queues」([3-1 ページ](#))を参照してください。

## 会議ウィンドウからの会議の開始

会議ウィンドウから会議を開始するには

- 1 会議ウィンドウの**新規会議** (  ) をクリックします。

**新規会議** - 一般ダイアログボックスが開きます。



会議のデフォルトの**名前**、**会議時間**、およびデフォルトの**プロファイル**が表示されます。プロファイルには、会議パラメーターとメディア設定が含まれています。

会議が開始されると、RMX が会議 **ID** を自動的に割り当てます。

ほとんどの場合、デフォルトの会議 **ID** を使用することができるため、**OK** をクリックするだけで会議を開始できます。必要に応じて、会議 **ID** を入力してから **OK** をクリックして会議を開始します。

RMX Web Client を使用してミーティングを開始する議長または主催者は、他の会議参加者がダイヤルインできるように、デフォルトの会議 ID (または作成した ID) を知らせる必要があります。

**新規会議 - 一般** ダイアログボックスを使用して、会議パラメーターを変更できます。会議に追加する定義済みのパラメーターがない場合、または追加情報を追加しない場合は、OK をクリックします。

## 一般タブ

- 2 次のパラメーターを定義します。

**表 3-2**      新規会議 一般オプション

フィールド	説明
表示名	<p>表示名は、RMX Web Client で表示される、母国語の文字セットによる会議エンティティ名です。会議、ミーティングルーム、エントリーキュー、および SIP Factory では、表示名フィールドのための ASCII 名が自動的に生成されます。この名前は、Unicode エンコーディングを使用して変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語テキストには ASCII エンコーディングが使用され、ほとんどの文字を含むことができます (長さはフィールドによって異なります)。</li> <li>ヨーロッパおよびラテン言語のテキストの長さは、最大長の約半分です。</li> <li>アジア言語のテキストの長さは、最大長の約 3 分の 1 です。</li> </ul>
表示名 ( 続き )	<p>テキストフィールドの最大長も、文字セットの組み合わせ (Unicode および ASCII)。</p> <p>ASCII でのフィールドの最大長は 80 文字です。同じ名前が別の会議、ミーティングルーム、またはエントリーキューですでに使用されている場合は、異なる名前を入力するよう求めるエラーメッセージが RMX によって表示されます。</p> <p><b>メモ:</b> このフィールドはすべてのタブで表示されます。</p>

表 3-2 新規会議 一般オプション ( 続き )

フィールド	説明
ルーティング名	<p>ルーティング名は、開催中の会議、ミーティングルーム、エントリーキュー、および SIP Factory がネットワーク上のさまざまなデバイス ( ゲートキーパーや SIP サーバなど ) への登録に使用する名前です。この名前は、ASCII 文字を使用して定義する必要があります <b>コンマ、コロン、セミコロンの各文字は、ルーティング名では使用できません。</b>ルーティング名はユーザが設定できますが、ルーティング名を入力しない場合は、次のように自動的に生成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ASCII 文字が表示名として入力されている場合は、ルーティング名としても使用されます。</li> <li>• Unicode 文字と ASCII 文字の組み合わせ ( または Unicode テキストのみ ) が表示名として入力されている場合は、ID ( 会議 ID など ) がルーティング名として使用されます。同じ名前が別の会議、ミーティングルーム、またはエントリーキューですでに使用されている場合は、異なる名前を入力するよう求めるエラーメッセージが RMX によって表示されます。</li> </ul>
プロファイル	<p>デフォルトの会議プロファイルの名前が表示されます。必要なプロファイルをリストから選択してください。</p> <p>会議プロファイルには、会議回線速度、メディア設定、および一般設定が含まれます。</p> <p>会議プロファイルの詳細については、<i>RMX 2000 Administrator's Guide</i> の「Conference Profiles」(1-1 ページ) を参照してください。</p>
会議時間	<p>会議の時間の長さを時単位で定義します。HH:MM の形式を使用します ( デフォルトは 01:00 )。</p>
ID	<p>MCU ごとに一意の会議 ID を入力します。空白のままにした場合、会議を開始したときに MCU によって自動的に番号が割り当てられます。</p> <p>この ID を会議参加者に知らせて、会議にダイヤルインできるようにする必要があります。</p>



表 3-2 新規会議 一般オプション ( 続き )

フィールド	説明	
会議パスワード	<p>参加者が会議にアクセスするために使用するパスワードを入力します。</p> <p>このパスワードは、会議パスワードの入力を求めるように設定された会議のみで有効です。</p>	<p>これらは数値フィールドで、デフォルトの長さは4文字です。管理者は、セットアップ - システム設定でこれらを変更できます。詳細については、<i>RMX 2000 Administrator's Guide</i> の「<i>System Configuration</i>」(12-11 ページ)を参照してください。</p>
議長パスワード	<p>RMX が議長を識別し、追加の権限を付与するために使用するパスワードを入力します。空白のままにした場合、議長パスワードが会議に割り当てられません。このパスワードは、議長パスワードの入力を求めるように設定された会議のみで有効です。</p>	

- 3 すべての参加者が未定義のダイヤルイン参加者であり、新しい会議の追加情報が不要の場合は、OK をクリックします。
- 4 参加者アドレス帳から参加者を追加する場合、または参加者 (主にダイヤルアウト参加者) を定義する場合は、参加者タブをクリックします。

## 参加者タブ



この手順はオプションです。

- 5 **参加者**をクリックします。  
参加者タブが開きます。

新規会議

> 一般  
参加者  
> 情報

表示名: POLYCOM\_455305694

名前	IP アドレス/電話	EI アドレス名/SIP ア	ネットワーク	ダイヤル
----	------------	----------------	--------	------

参加者リスト

新規 削除 アドレス帳から追加

講師: [dropdown]

OK キャンセル

新しい会議を定義する場合、参加者リストは空です。

次の表で、参加者リストに表示される情報と、実行できる操作について説明します。

**表 3-3** 新規会議 - 参加者タブ

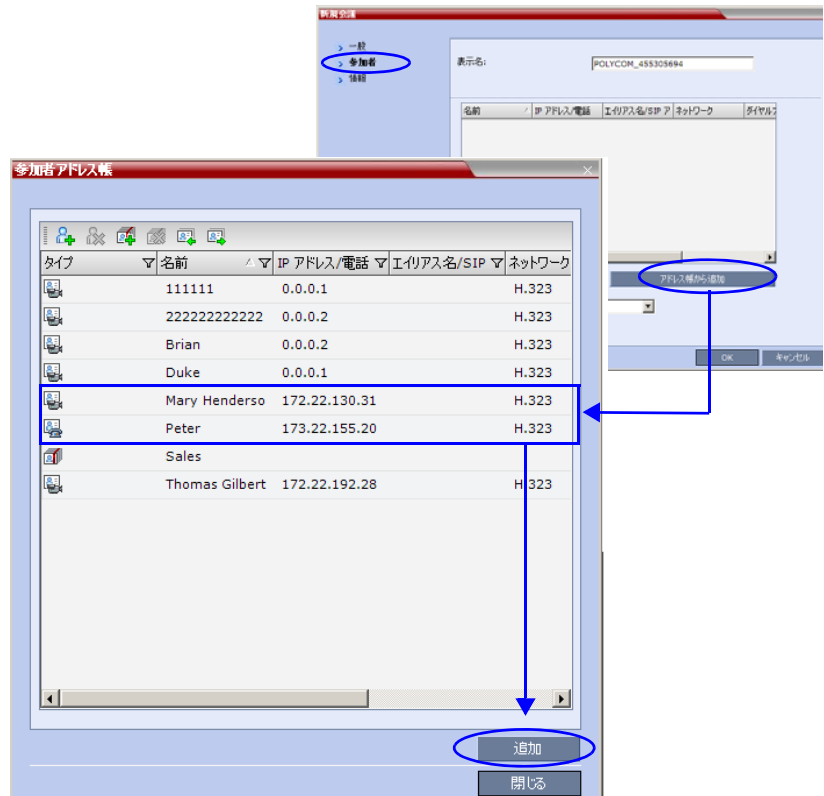
列 / ボタン	説明
<b>参加者リスト</b>	
名前	参加者の名前と、エンドポイントのタイプ (オーディオのみまたはビデオ) を表すアイコンを表示する Unicode フィールド。
IP アドレス / 電話	<p>参加者のエンドポイントの IP アドレスまたは電話番号が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイヤルアウト接続の場合、Polycom RMX 2000 によって呼び出されたエンドポイントの IP アドレスまたは電話番号が表示されます。</li> <li>ダイヤルイン接続の場合、参加者を識別して適切な会議にルーティングするために使用される参加者の IP アドレスまたは電話番号が表示されます。</li> </ul>
エイリアス名 / SIP アドレス (IP のみ)	H.323 エンドポイントのエイリアス名または SIP URL が表示されます。
ネットワーク	エンドポイントが会議に接続するのに使用するネットワーク通信プロトコルは、H.323、SIP または ISDN/PSTN です。
発着信方向	<p><b>ダイヤルイン</b> - 参加者が会議にダイヤルインします。</p> <p><b>ダイヤルアウト</b> - RMX が参加者にダイヤルアウトします。</p>

表 3-3 新規会議 - 参加者タブ ( 続き )

列 / ボタン	説明
暗号化	<p>エンドポイントがこのメディアに暗号化を使用するかどうかが表示されます。</p> <p>デフォルトの設定は<i>自動</i>で、エンドポイントの接続は会議の暗号化設定に従う必要があることを示しています。</p> <p><b>メモ</b> : H.320 プロトコル (ISDN/PSTN) は、暗号化をサポートしていません。</p>
<b>ボタン</b>	
新規	新規参加者を定義するときにクリックします。詳細については、 <i>RMX 2000 Administrator's Guide</i> の「Adding a Participant to the Address Book」( <a href="#">4-4 ページ</a> ) を参照してください。
削除	選択した参加者を会議から削除するときにクリックします。
アドレス帳から追加	アドレス帳から会議に参加者が追加するときにクリックします。
<b>講師</b>	
講師	このオプションは、 <i>講師</i> モードをアクティブにするために使用します。会議参加者のドロップダウンメニューリストから、 <i>講師</i> に指定する参加者を選択します。

アドレス帳から参加者を追加するには

- 6 参加者リストの**アドレス帳から追加**をクリックして、**参加者アドレス帳**を開きます。



- 7 参加者アドレス帳で、会議に追加する参加者を選択し、**追加**をクリックします。

この手順では、Windows の標準的な複数選択テクニックを使用できます。

- 8 選択した参加者が会議に割り当てられ、**参加者リスト**に表示されます。
- 9 追加の参加者を選択するか、**閉じる**をクリックして**参加者タブ**に戻ります。

アドレス帳からのドラッグアンドドロップによる参加者の追加

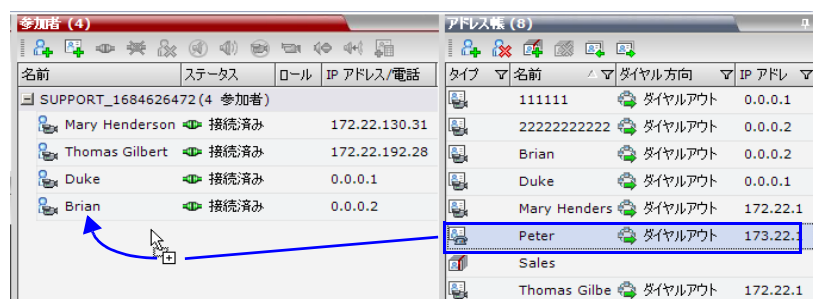
**新規会議** 参加者タブを使用しなくても、参加者アドレス帳から直接、参加者を会議に追加できます。

**参加者を参加者リストにドラッグアンドドロップするには**

10 アドレス帳を開きます。

11 参加者アドレス帳から直接、会議に追加する参加者を選択し、参加者リストにドラッグアンドドロップします。

この手順では、Windows の標準的な複数選択テクニックを使用できます。



## 情報タブ



この手順はオプションです。

情報を会議に追加するには

この情報は、会議が開始されたときに *Call Detail Record (CDR)* に書き込まれます。会議開始後にこの情報に加えられた変更は、*CDR* に保存されません。

12 **情報**をクリックします。**情報**タブが開きます。

13 次の情報を入力します。

**表 3-4**      新規会議 - 情報オプション

フィールド	説明
Info1、2、3	会社名や連絡先など、会議に関する一般情報を入力できる情報フィールドが3つあります。 これらのフィールドでは、Unicode を使用できます。
課金情報	該当する場合は、会議課金コードを入力します。

14 OK をクリックします。

会議ウィンドウに、新しい会議のエントリが表示されます。

会議の参加者が定義されていない場合、または参加者が接続されていない場合は、空という表示と警告アイコン (⚠) が会議ウィンドウのステータス列に表示されます。

ステータスは、参加者が会議に接続すると変更されます。

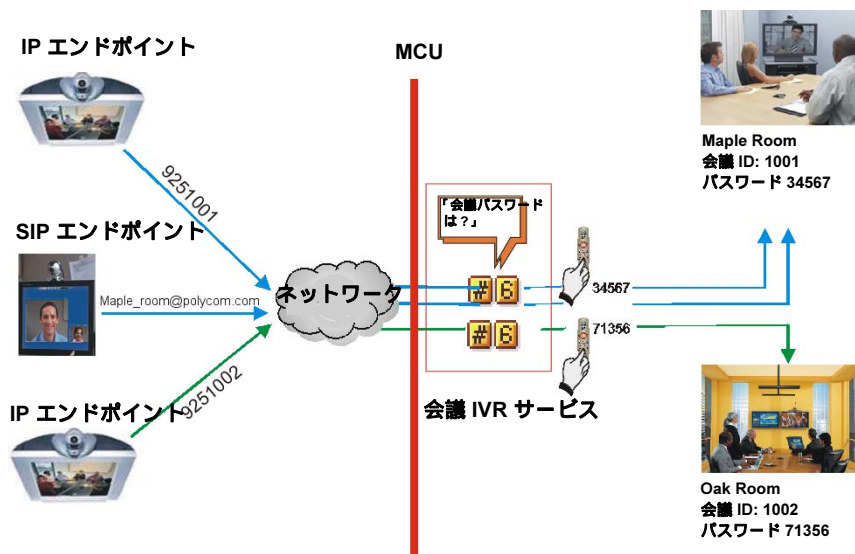
## 会議への接続

### 直接ダイヤルイン

直接ダイヤルインによる会議およびミーティングルームへの接続が可能なのは、IP エンドポイントのみです。

ネットワークタイプ、会議パスワード、および議長パスワードに応じて異なるダイヤル文字列を参加者に提供する必要があります。

参加者は会議ダイヤルイン文字列をダイヤルして会議 IVR サービスに接続されます。会議パスワードや議長パスワードなどの情報を正しく入力すると、参加者は会議に接続されます。



#### IVR システムを介したダイヤルイン接続

議長は、議長パスワードを会議パスワードとして使用できます。会議パスワードを入力する必要はありません。



ハイデフィニションビデオスイッチ会議に接続する参加者は、HD 対応のエンドポイントを持っている必要があります。会議に対して定義されているものと同じ回線速度を使用して接続する必要があります。この要件を満たしていない場合、セカンダリ（オーディオのみの参加者）として接続されます。



## H.323 参加者

H.323 参加者の場合、ダイヤル文字列はゲートキーパーの MCU プリフィックスと会議 ID で構成されます。

例：

ゲートキーパープリフィックス	925
会議 ID	1001
会議名	Maple_Room

☞ 参加者がダイヤルする文字列 9251001 または 925Maple\_room

ネットワークに対して定義されているゲートキーパーがない場合、H.323 参加者は MCU のシグナリングホスト IP アドレスと会議 ID を ## で区切ってダイヤルします。

例：

MCU ( シグナリングホスト ) IP アドレス 172.22.30.40

会議 ID	1001
-------	------

☞ 参加者がダイヤルする文字列 172.22.30.40##1001

## SIP 参加者

SIP 参加者の場合、ダイヤル文字列は会議名とドメイン名で構成され、次の形式をとります。

*conference\_name@domain\_name*

例：

☞ 参加者がダイヤルする文字列 Maple\_room@polycom.com

## エントリーキューアクセス

エントリーキューを介したアクセスでは、すべての参加者が同じエントリーポイントにダイヤルできます。このエントリーポイントは、ルーティングのためのロビーとして機能します。エントリーキューに入った参加者は、入力した会議 ID に応じて会議に誘導されます。

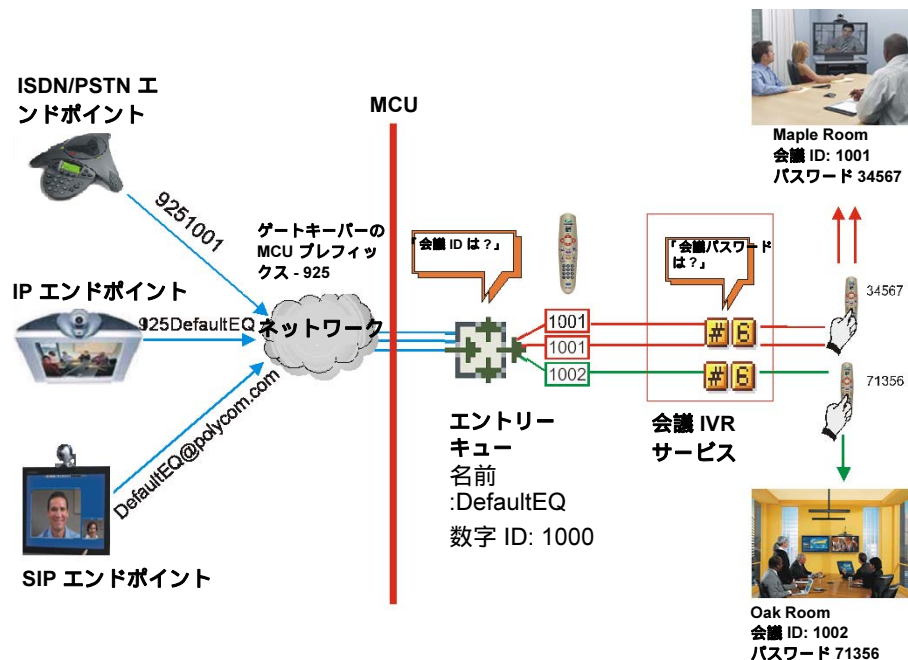


図 3-1: エントリーキューを介したダイヤルイン接続

ダイヤル方法は会議の場合と同じで、会議の ID や名前の代わりにエントリーキューの ID または名前が使用されます。

### H.323 参加者

H.323 参加者は、[ ゲートキーパープリフィックス ] [ エントリーキューの ID または名前 ] をダイヤルします。

例：

ゲートキーパープリフィックス	925
エントリーキュー ID	1000

### ☉ 参加者がダイヤルする文字列 9251000

H.323 参加者は、最初のダイヤル文字列に接続先の会議の正しい会議 ID を追加すると、エントリーキュー IVR 音声メッセージをバイパスできます。

[ ゲートキーパープリフィックス ] [EQ ID] [## 接続先の会議 ID]

例:

会議 ID 1001

### ☉ H.323 参加者がダイヤルする文字列 9251000##1001

また、H.323 参加者は、最初のダイヤル文字列に会議パスワードを追加すると、会議 IVR 音声メッセージもバイパスできます。

[ ゲートキーパープリフィックス ] [EQ ID] [## 接続先の会議 ID] [## パスワード]

例:

会議 ID 1001

会議パスワード 34567

### ☉ H.323 参加者がダイヤルする文字列 9251000##1001##34567

## SIP 参加者

エントリーキューを使用すると、SIP サーバへの登録が必要な会議の数が最小限に抑えられ、1 つの URI アドレスをすべてのダイヤルイン会議に使用できるようになります。次の形式の URI を使用します。

< エントリーキュー名 >@< ドメイン名 >

例:

エントリーキュー名 DefaultEQ

ドメイン名 polycom.com

### ☉ SIP 参加者がダイヤルする文字列 DefaultEQ@polycom.com

## ISDN/PSTN 参加者

PSTN 参加者は、オーディオのみの参加者です。PSTN 参加者はエントリーキューを介してのみ、会議およびミーティングルームに接続できます。

PSTN 参加者用のエントリーキューには、最大 2 個のダイヤルイン番号を割り当てることができます。

エントリーキューに割り当てられていない PSTN ダイアルイン範囲内の番号への通話は、通過エントリーキューにルーティングされます。

ダイアルイン PSTN 参加者は、エントリーキューに割り当てられたダイアルイン番号のいずれかにダイヤルします。必要な場合は、国番号と市外局番もダイヤルします。ダイヤルした参加者は、会議 ID に応じて会議にルーティングされます。

ダイヤルアウト参加者

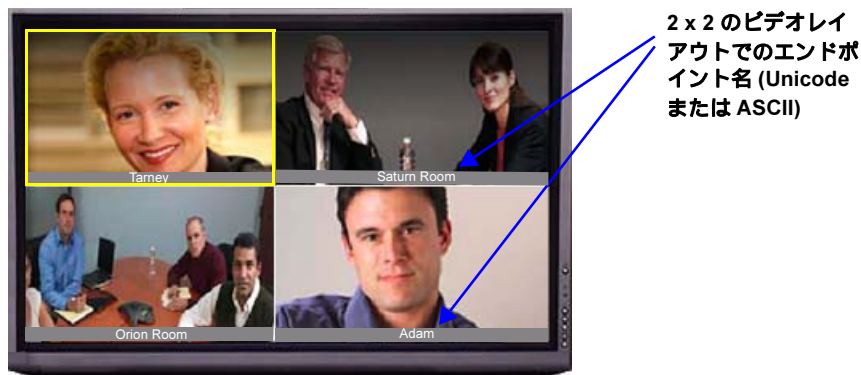
ダイヤルアウト参加者は、ダイヤルアウト番号で定義されます。開催中の会議にダイヤルアウト参加者が追加されると、参加者に対して定義されているデフォルトの H.323、SIP、または ISDN/PSTN ネットワークサービスを使用して、MCU が参加者に自動的に電話をかけます。

## ビデオレイアウトにおけるエンドポイント名

### エンドポイント名

会議中、会議に接続されているエンドポイントの名前を自分のエンドポイントのビデオレイアウトウィンドウに表示できます。

エンドポイント画面でのエンドポイント名の表示の例を次に示します。



表示名は次のように決定されます。

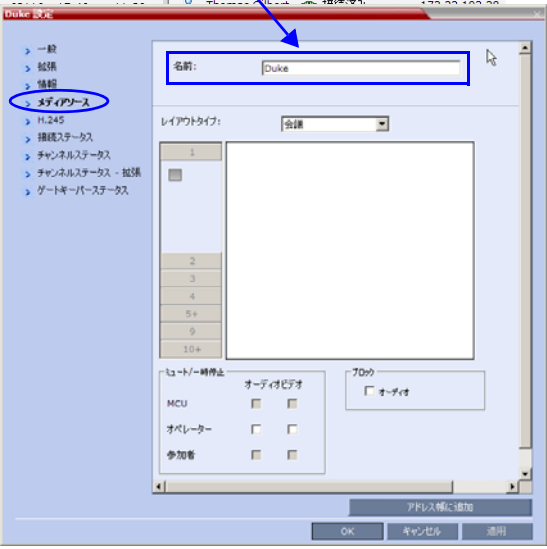
- エンドポイントで定義されている名前が表示されます。
- エンドポイントがエンドポイント名を送信しない場合は、次のようになります。

- 定義済みの H.323 参加者または SIP 参加者の場合
  - 参加者定義にある名前が表示されます。
- 未定義の H.323 参加者の場合
  - H.323 ID エイリアスが表示されます。  
または、E.164 エイリアスが表示されます。  
または、すべてのフィールドが空の場合は何も表示されません。
- 未定義の SIP 参加者の場合
  - SIP *DisplayName* フィールドが表示されます。  
または、SIP アドレス (SIP アプリケーションサーバ) が表示されます。  
または、SIP *ContactDisplay* フィールドが表示されます。  
または、すべてのフィールドが空の場合は何も表示されません。
- 定義済みの H.323 参加者の場合
  - 参加者定義にある名前が表示されます。
- 未定義の H.320 参加者の場合
  - *Terminal Command String* (TCS-2) を表示して参加者を識別します。  
文字列が受信されていないまたは空白の場合は何も表示されません
- RMX Web Client でエンドポイントの表示名が変更された場合、その表示名が上記すべてに優先されます。

表示名を変更するには

- 1 参加者リストで、参加者をダブルクリックします。または、参加者を右クリックし、ドロップダウンメニューから**参加者設定**を選択します。

参加者設定 - メディアソースダイアログボックスが開きます。



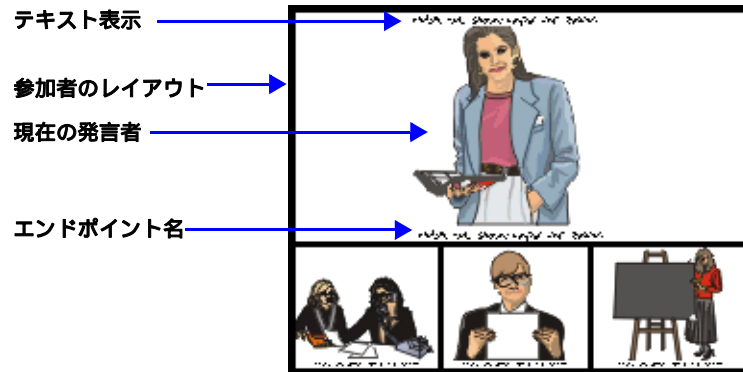
- 2 新しい表示名を **名前**フィールドに入力し、OK をクリックします。

## テキスト表示

テキスト表示は、参加者のレイアウト内で現在の発言者のウィンドウにエンドポイント名に加えて表示されます。会議のセキュアモード（オンまたはオフ）、接続している参加者の総数、ビデオ参加者の数およびオーディオ参加者の数が表示されます。

テキスト表示は、会議のセキュア状態に変更があった（セキュアが実施またはキャンセルされた）ときに自動的に表示され、数秒間（エンドポイント名と同じ時間）のみ表示されます。

会議の議長または参加者は、リモコンなどのエンドポイントの DTMF 入力デバイスに DTMF コード \*88 を入力することによって、会議の統計情報のテキスト表示を要求することができます。



テキスト表示は、会議の IVR サービスの許可設定に従って表示されます。

- ・ 議長許可：議長のみに対して表示されます。
- ・ 全員許可：参加者全員に対して表示されます。



セカンダリ（ビデオなし）に接続した参加者はオーディオ参加者と見なされます。会議に現在接続していない定義済みの参加者（未接続、リダイヤル、切断中など）はカウントされません。

## エンドポイント名の透明度

エンドポイント名の背景の透明度は 50% であり、コントラストが維持される一方で、重ねられたビデオが完全に見えなくなることはありません。Endpoint Name Transparency 機能は、次のようにして新しいフラグをシステム設定に追加し、値を NO に設定すると無効にできます。  
SITE\_NAME\_TRANSPARENCY=NO

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「System Configuration」(12-11 ページ) を参照してください。

## 開催中の会議のモニタリング

会議をモニタリングすると、会議や参加者を追跡して、すべての参加者が正しく接続されているか、エラーや障害が発生していないかを確認できます。

## 操作の選択

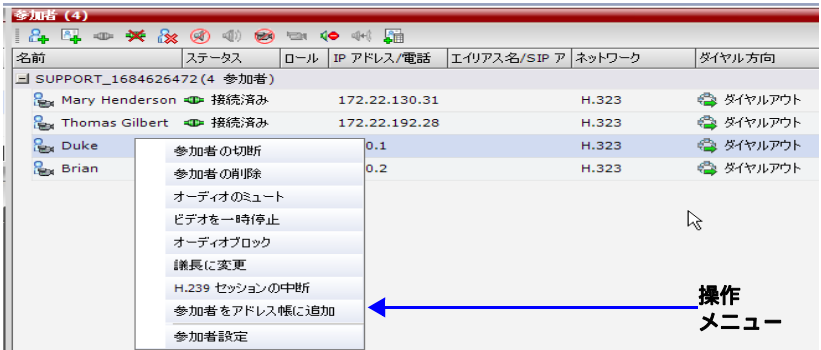
開催中の会議で実行されるモニタリングおよび操作の手順はすべて、次の 2 つの方法のいずれかで実行されます。

- ツールバーのボタンを使用する。



- 会議ウィンドウ内または参加者ウィンドウ内の任意の場所を右クリックし、メニューから操作を選択する。



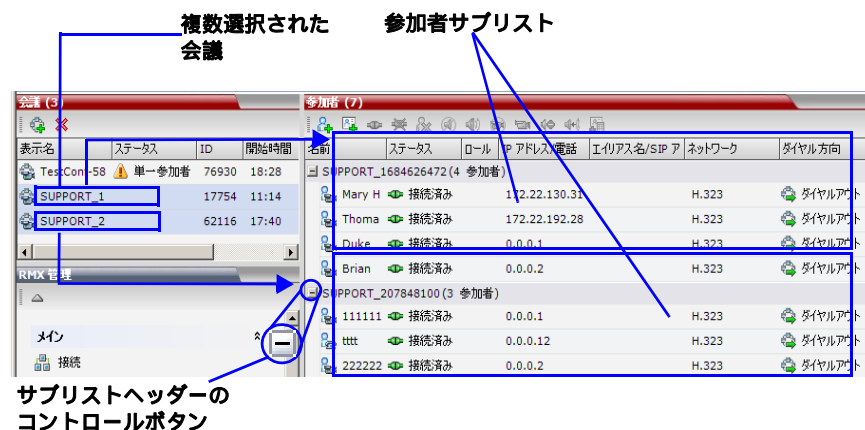


## 複数選択

複数選択を使用すると、複数の会議の複数の参加者をモニタリングしたり、それらに対して同時に操作を実行したりできます。

選択した会議は、参加者リストウィンドウにサブリストとして表示されます。

サブリストは、サブリストのヘッダーの会議名の横に表示されるサブリストコントロールボタンの **+** および **-** をクリックして開閉できます。



## 会議レベルのモニタリング

管理者、オペレーター、および議長は、会議レベルのモニタリングを実行することができます。

会議リストウィンドウには、開催中の会議に関する情報が表示されます。





ステータス列には、表 3-5 に示したステータスインジケータが 1 つ以上表示される場合があります。

ステータス列にステータスインジケータが1つも表示されない場合は、会議が問題なく実行されていることを意味します。

有効会議のプロファイルで会議レコーディングが有効になっているときは、会議レコーディングボタンが色付きで表示されます。

**表 3-5** 会議 - モニタリング情報

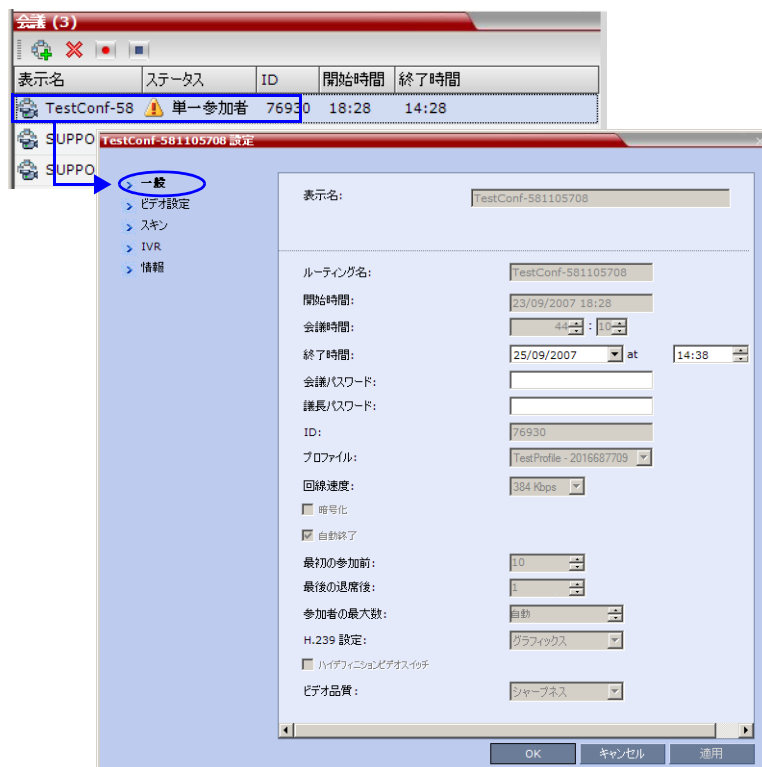
フィールド	説明
名前	<p>会議名と会議タイプが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> - ビデオ会議 (HD CP 会議を含む)</li> <li> - Video Switching モードで実行されているハイデフィニションビデオ会議</li> </ul>
ステータス	<p>開催中の会議のステータスが表示されます。 参加者の接続に問題がない場合は、何も表示されません。 次のいずれかのステータスが発生した場合は、適切な表示が行われます。表示の前には警告アイコン (🚨) が付きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>オーディオ</b> - 参加者のオーディオに問題があります。</li> <li><b>空</b> - 接続された参加者はいません。</li> <li><b>接続障害</b> - 参加者が接続されていますが、その接続に問題があります。</li> <li><b>満員ではありません</b> - 接続されている定義済みの参加者は、全員ではありません。</li> <li><b>部分的に接続</b> - 接続プロセスがまだ完了していません。ビデオチャネルが接続されていません。</li> <li><b>単一参加者</b> - 参加者が1人だけ接続されています。</li> <li><b>ビデオ</b> - 参加者のビデオに問題があります。</li> <li><b>安全</b> - 議長が*71 DTMF コードを使用して会議をセキュリティで保護しています。</li> </ul>
ID	会議に割り当てられた会議 ID。
開始時間	会議の開始時刻。
終了時間	会議が終了すると予想される時刻。

会議に関するその他の情報は、会議設定にアクセスすると確認できます。

会議をモニタリングするには

会議リストウィンドウで、モニタリングする会議の名前をダブルクリックします。または、会議を右クリックし、**会議設定**をクリックします。

会議設定ダイアログボックスが、**一般**タブが開いた状態で表示されます。



すべての会議設定を表示できますが、グレーの背景で表示された設定を変更することはできません。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「Conference Level Monitoring」(5-3 ページ) を参照してください。

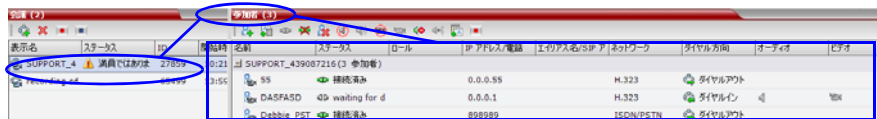
## 安全な会議のモニタリング

セキュア会議モードは RMX 上で有効になり、会議の議長は DTMF コードを使用して会議のセキュリティ保護を切り替えることができます。会議がセキュリティで保護されている場合は、ダイヤルインおよびダイヤルアウト接続が禁止され、管理者が参加者を監視したり会議の制御を行ったりすることはできません。管理者は、セキュリティで保護された会議を手動で終了することはできますが、参加者のリストまたは会議のプロパティを表示することはできません。

## 参加者レベルのモニタリング

### 参加者の接続のモニタリング

会議リストで会議を選択すると、参加者の詳細がリストウィンドウに表示されます。



次の参加者インジケータと設定が表示されます。

**表 3-6** 参加者のモニタリング - インジケータと設定



列	アイコン / 説明
名前	参加者の名前とタイプ (アイコン) が表示されます。
	 <b>オーディオ参加者</b> - IP 電話または ISDN/PSTN で接続されています。
	 <b>ビデオ参加者</b> - オーディオチャンネルとビデオチャンネルで接続されています。

表 3-6 参加者のモニタリング- インジケータと設定 ( 続き )












列	アイコン / 説明
ステータス	参加者の接続ステータス ( テキストとアイコン ) が表示されます。参加者の接続に問題がない場合は、何も表示されません。
	 <b>接続済み</b> - 参加者は正常に会議に接続されています。
	 <b>切断済み</b> - このステータスは、定義済みの参加者のみに適用されます。
ステータス ( 続き )	 <b>ダイヤルイン待ち</b> - 定義済みの参加者が会議にダイヤルインするのを待っています。
	 <b>部分的に接続</b> - 接続プロセスがまだ完了していません。ビデオチャンネルが接続されていません。
	 <b>接続障害</b> - 参加者は接続されていますが、同期が失われたなどの問題が発生しています。
	 <b>Secondary Connection</b> - エンドポイントのビデオチャンネルを会議に接続できず、参加者はオーディオのみで接続されています。
ロール	会議での参加者のロールまたは役割が表示されます。
	 <b>議長</b> - 議長は、トーンダイヤル信号 ( DTMF コード ) を使用して会議を管理できます。
	 <b>講師</b> - 参加者は会議の講師として定義されています。
	 <b>講師兼議長</b> - 参加者は会議の講師としても議長としても定義されています。
	 <b>カスケードが有効なダイヤルイン参加者</b> - カスケード会議のリンクとして機能する特別な参加者。
	 <b>レコーディング</b> - レコーディングリンクとして機能する特別な参加者。
IP アドレス / 電話	IP 参加者の IP アドレスまたは ISDN/PSTN 参加者の電話番号。

表 3-6 参加者のモニタリング- インジケータと設定 ( 続き )









列	アイコン / 説明	
エイリアス名 / SIP アドレス	参加者のエイリアス名または SIP URI。 参加者がレコーディングリンクとして機能している場合には RSS 2000 レコーディングシステムのエイリアス。	
ネットワーク	参加者のネットワーク接続タイプ (H.323、SIP、または ISDN/PSTN)。	
発着信方向		<b>ダイヤルイン</b> - 参加者が会議にダイヤルしました。
		<b>ダイヤルアウト</b> - MCU が参加者にダイヤルしました。
オーディオ	参加者のオーディオチャンネルのステータスが表示されます。 参加者のオーディオが接続されていて、チャンネルがミュートもブロックもされていない場合は、何も表示されません。	
		<b>ミュート中</b> - この状態でも参加者は会議の音声を聞くことができます。
		<b>ブロック中</b> - 会議から参加者へのオーディオの送信がブロックされています。
		<b>ミュート中かつブロック中</b> - オーディオチャンネルがミュートされていて、さらにブロックされています。
ビデオ	参加者のビデオチャンネルのステータスが表示されます。 参加者のビデオ接続に問題がなく、オーディオチャンネルが一時停止されていたりセカンダリであったりしなければ、何も表示されません。	
		<b>一時停止中</b> - 参加者から会議へのビデオ送信が一時停止しています。
		<b>セカンダリ</b> - ビデオチャンネルの問題が原因で、参加者はオーディオチャンネルのみで接続されています。

表 3-6 参加者のモニタリング- インジケータと設定 ( 続き )

列	アイコン / 説明	
暗号化		エンドポイントが会議への接続に暗号化を使用していることを示します。
FECC トークン		参加者は FECC トークンの所有者で、相手側からのカメラ制御 (FECC) 機能を使用できます。 FECC トークンは、一度に 1 人の参加者のみに割り当てられます。このトークンを要求する参加者がいない場合は、割り当てられないままです。
コンテンツトークン		参加者はコンテンツトークンの所有者で、コンテンツを共有する許可が与えられています。 コンテンツトークンは、一度に 1 人の参加者のみに割り当てられます。このトークンを要求する参加者がいない場合は、割り当てられないままです。 詳細については、 <i>RMX 2000 Administrator's Guide</i> の「H.239」(6-14 ページ) を参照してください。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「Conference Level Monitoring」(5-8 ページ) を参照してください。

## 開催中の会議で実行される操作

### 会議レベルの操作

#### 会議時間の変更

各会議の会議時間は、新しい会議を作成するときに設定します。デフォルトの会議時間は 1 時間です。RMX で実行されているすべての会議は、会議に接続されている参加者がいる限り、自動的に延長されます。

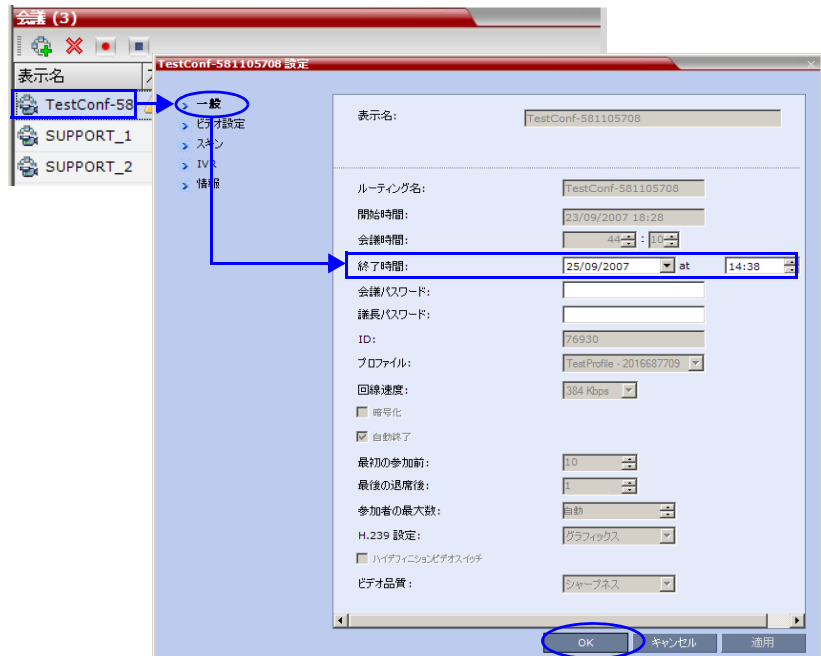
会議の会議時間は、スケジュールした終了時間を変更することで、実行中に延長または短縮できます。

会議を手動で延長または短縮するには

- 1 会議ウィンドウで、会議の名前をダブルクリックします。



- 2 一般タブで、終了時間フィールドを変更し、OK をクリックします。



終了時間が変更され、会議時間フィールドが更新されます。

会議を手動で終了するには

- 1 会議リストで、削除する会議を選択し、**会議の削除 (X)** をクリックします。

確認を求められます。



- 2 OK をクリックして、会議を終了します。

## 会議のビデオレイアウトの変更

会議の実行中に、ビデオレイアウトを変更し、RMX でサポートされている 24 種類のビデオレイアウトから 1 つを選択できます。

ビデオレイアウトの選択は、次の 2 つのレベルで行うことができます。

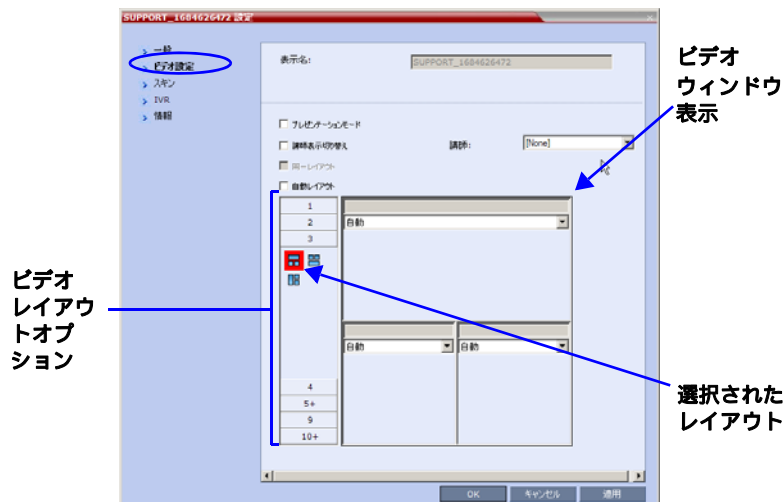
- **会議レベル** - すべての会議参加者に適用されます。すべての参加者のビデオレイアウトは同じになります。
- **参加者レベル** - 当該参加者のビデオレイアウトが変更されます。その他の会議参加者のビデオレイアウトは影響を受けません。

最初のビデオレイアウトは、**会議プロフィール**で会議に対して選択されます。

参加者レベルのビデオレイアウトの選択は、会議レベルのビデオレイアウト設定に優先されます。

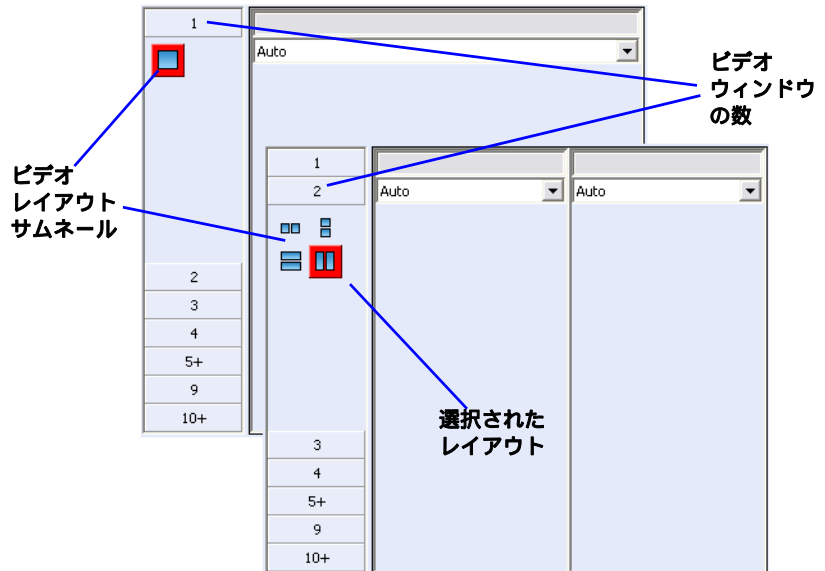
会議のビデオレイアウトを変更するには

- 1 **会議設定**ダイアログボックスで、**ビデオ設定**を選択します。



- 2 **自動レイアウト**チェックボックスがオンになっている場合は、オフにします。

- 3 ビデオレイアウトのオプションから、表示するウィンドウの数と必要なビデオレイアウトのサムネイルを選択し、OK をクリックします。



## Video Forcing

議長またはオペレーターの権限を持つユーザは、*Video Forcing* を使用して、ビデオレイアウトウィンドウごとに表示する参加者を選択できます。ある参加者をレイアウトウィンドウに強制表示すると、そのウィンドウでの参加者の切り替えは一時停止され、割り当てられた参加者のみが表示されます。Video Forcing は、会議レベルまたは参加者レベルで機能します。

- **会議レベル** ある参加者をウィンドウに強制表示すると、すべての会議参加者の特定のウィンドウにその参加者が表示されます。
- **参加者レベル** - ある参加者をウィンドウに強制表示すると、その参加者のビデオレイアウト表示のみが影響を受けます。その他の参加者には会議レイアウトが表示されます。

Video Forcing に関するガイドライン

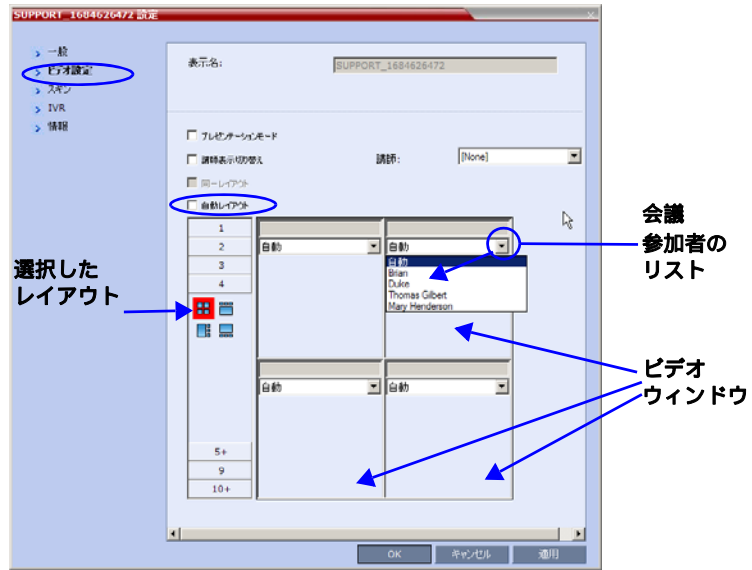
- 1 人の参加者を同時に 2 つ以上のウィンドウに表示することはできません。

- 参加者レベルの Video Forcing は、会議レベルの Video Forcing に優先されます。
- 同一レイアウトオプションを選択すると、参加者は自分自身をレイアウトウィンドウに表示できます。
- 個人レイアウトでは、1+2、1+3、1+4 などの異なるサイズのビデオウィンドウがビデオレイアウトで使用されている場合、参加者を強制表示できるのは、会議レイアウトでその人物用に選択したサイズと同じサイズのビデオウィンドウのみです。
- 会議レベルでビデオレイアウトを変更した場合、新しいレイアウトには Video Forcing の設定が適用されず、参加者の切り替えではオーディオがアクティブです。Video Forcing の設定は保存され、レイアウトを次回選択したときに適用されます。
- 参加者が割り当てられていないウィンドウには、現在の発言者と最後の発言者が表示されます。

参加者をウィンドウに強制表示するには

- 1 会議設定ダイアログボックスで、**ビデオ設定**タブを選択します。
- 2 **自動レイアウト**チェックボックスがオンになっている場合は、オフにします。
- 3 必要なビデオレイアウトを選択します。

- 4 参加者を強制表示するウィンドウで、参加者の名前を会議参加者のリストから選択します。



- 5 他のウィンドウに参加者を強制表示するには、ステップ 3 を繰り返します。
- 6 OK をクリックします。

ウィンドウの Video Forcing をキャンセルするには

- 1 会議設定ダイアログボックスで、**ビデオ設定**タブを選択します。
- 2 ビデオレイアウトウィンドウの **参加者**リストで、**自動**を選択します。
- 3 OK をクリックします。

参加者の切り替えが再開されます。オーディオはアクティブです。

## 参加者レベルの操作

参加者レベルの操作では、開催中の会議における参加者の接続やステータスを変更および制御できます。

表 3-7 に、実行できる参加者レベルの操作を示します。

**表 3-7** 参加者レベルの操作










メニュー オプション	ボタン	説明
新規参加者		新規参加者を定義します。 新規参加者ダイアログボックスのタブの詳細については、 <a href="#">3-19 ページの表 3-3</a> を参照してください。
アドレス帳から参加者を追加		アドレス帳を開いて、会議の参加者を選択します。 アドレス帳の詳細については、RMX 2000 Administrator's Guide の「Address Book」( <a href="#">4-1 ページ</a> ) を参照してください。
参加者の接続		切断されている未定義のダイヤルアウト参加者を会議に接続します。
参加者の切断		参加者を会議から切断します。
参加者の削除		選択した参加者を会議から削除します。
オーディオのミュート		参加者から会議へのオーディオ送信をミュートします。 オーディオミュート中インジケータが参加者リストに表示され、オーディオミュート解除ボタン (  ) がアクティブになります。
オーディオミュート解除		参加者から会議へのオーディオ送信が再開されます。 オーディオのミュートボタン (  ) がアクティブになります。

表 3-7 参加者レベルの操作 ( 続き )










メニュー オプション	ボタン	説明
ビデオを 一時停止		参加者から会議へのビデオ送信を一時停止します。 抑制された参加者のビデオは会議に送信されませんが、この状態でも参加者は会議ビデオを受信します。 ビデオを一時停止インジケータが参加者リストに表示され、ビデオを再開ボタンが  アクティブになります。
ビデオを 再開		参加者から会議へのビデオ送信が再開されます。 ビデオを一時停止ボタン (  ) がアクティブになります。
オーディオ ブロック		会議から参加者へのオーディオ送信をブロックします。ブロックされていても、会議では参加者の音声を聞くことができます。 オーディオブロックインジケータが参加者リストに表示され、オーディオブロック解除ボタン (  ) がアクティブになります。
オーディオ ブロック解除		会議から参加者へのオーディオ送信が再開されます。  オーディオブロックボタン (  ) がアクティブになります。
参加者を アドレス 帳に追加		選択した参加者の詳細を参加者アドレス帳に追加します。
H.239 セッ ションの 中断		選択すると、コンテンツトークンが参加者から回収され、再割り当てできるように MCU に戻されます。
議長に変 更		選択した参加者を会議リーダー / 議長として定義します。
通常の参 加者に変 更		議長を、議長権限を持たない通常の参加者として定義します。

表 3-7      参加者レベルの操作 ( 続き )

メニュー オプション	ボタン	説明
Web サイトに接続		参加者のエンドポイントの内部 Web サイトに直接接続して、管理、設定およびトラブルシューティング作業を行います。
AGC (Auto Gain Control)		AGC は、会議進行中に音声信号が弱い参加者に対して有効にできます。 <b>メモ</b> : AGC を有効にすると、バックグラウンドノイズが増幅される場合があります。
参加者設定		すべての参加者設定の詳細を表示するには、これを選択します。 詳細については、 <i>RMX 2000 Administrator's Guide</i> の「Participant Level Monitoring」(5-8 ページ) を参照してください。



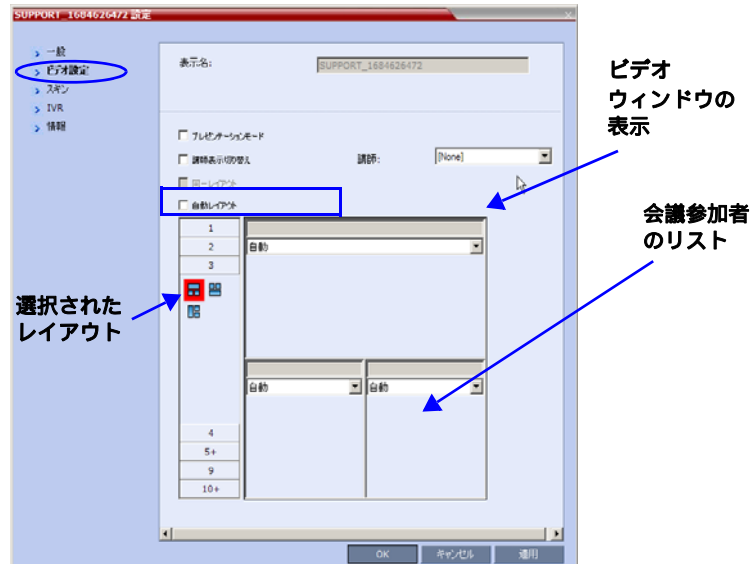
## 個人レイアウトの制御

RMX Web Client の使用による個人レイアウトの制御

RMX ユーザは RMX Web Client を使用して、個々の参加者のビデオレイアウトを変更すること、および他の参加者のビデオレイアウトに影響を与えることなく参加者をウィンドウに強制表示することができます。

参加者のビデオレイアウトおよび Video Forcing を変更するには

- 1 参加者リストで、参加者をダブルクリックします。または、参加者を右クリックし、メニューから**参加者設定**を選択します。  
参加者設定 - メディアソースダイアログボックスが開きます。
- 2 レイアウトタイプリストで、**個人**を選択します。



- 3 ビデオウィンドウの数を選択します。
- 4 必要なビデオレイアウトを選択します。
- 5 選択したビデオレイアウトのウィンドウに参加者を強制表示するには、参加者を表示するウィンドウで、強制表示する参加者の名前を会議参加者のリストから選択します。
- 6 他のウィンドウに参加者を強制表示するには、ステップ 5 を繰り返します。
- 7 OK をクリックします。

個人ビデオレイアウトの選択をキャンセルして会議レイアウトに戻るには

- 1 参加者設定ダイアログボックスで、**メディアソース**タブを選択します。
- 2 レイアウトタイプリストで、**会議**を選択します。
- 3 OK をクリックします。

この参加者には、強制された参加者が表示された状態で会議ビデオレイアウトが表示されるようになります。

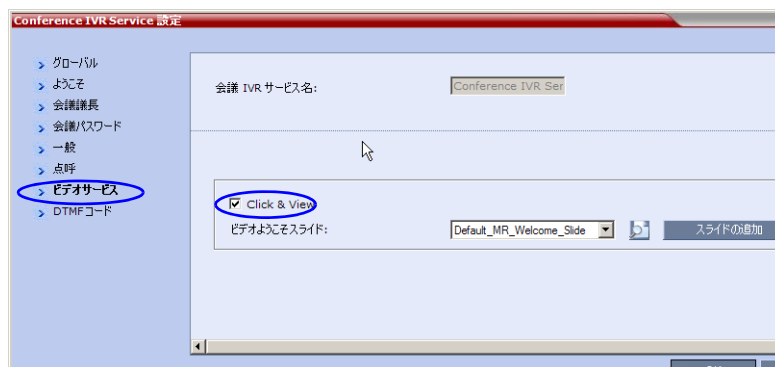
会議レイアウトに戻らずにウィンドウの個人向け Video Forcing をキャンセルするには

- 1 参加者設定 メディアソースダイアログボックスのビデオレイアウトウィンドウの参加者リストで、**自動**を選択します。
- 2 OK をクリックします。



参加者の切り替えが再開されます。オーディオはアクティブです。

Click&View の使用による個人レイアウトの選択

参加者は Click&View アプリケーションを使用して、エンドポイントから DTMF コードを入力し、各自の個人レイアウトを変更できます。このオプションは、会議で使用されている IVR サービスで Click&View オプションが選択されている場合に限り使用できます。



Click&View を使用して個人レイアウトを変更するには

- 1 Click&View を有効にする - エンドポイントのキーパッドで   を入力します。

Click&View アプリケーションが画面に表示されます。



Polycom VSX エンドポイントを使用している場合は、リモートの DTMF キーパッドを有効にするために、 を追加で入力する必要があります。  
Click&View 入力シーケンスは全体で , , のようになります。

個人レイアウトキーパッドオプションのメニューがビデオ画面に表示されます。



- 2 エンドポイントのリモートキーパッドで、選択するビデオウィンドウの数に対応する数字を押します。

たとえば、4つのウィンドウがあるビデオレイアウトを選択する場合は、 を押します。

画面のビデオウィンドウレイアウトが、下図のように最初の4ウィンドウレイアウトに変更されます。



8秒以内に キーを繰り返して押すと、次に示す4ウィンドウレイアウトの一連のオプションで切り替わります。
























複数ウィンドウのレイアウトで を押すと、現在の発言者が左上のウィンドウに表示されます。

全体表示で **#** を押すと、次の参加者が全体表示に表示されます。  
ビデオレイアウトでは、**0** を押すと会議のレイアウトが元に戻ります。

次の表に、*Click&View* を介して使用できるビデオレイアウトオプションを示します。

**表 3-8** ビデオレイアウトオプション

DTMF コード	レイアウトオプション
1	
2	   
3	  
4	   
5	  
6	
8	
9	   

## DTMF コードの使用による会議制御

参加者および議長は、各自のエンドポイントからトーンダイヤル信号 (DTMF コード) を使用して、開催中の会議への接続を管理できます。

議長は DTMF コードを使用して、開催中の会議も制御できます。

すべての会議参加者または議長が実行する DTMF アクションに関する許可は、会議に割り当てられた *会議 IVR サービス* のみで設定できます。

詳細については、*RMX 2000 Administrator's Guide* の「*Defining a New Conference IVR Service*」([10-9 ページ](#)) を参照してください。

表 3-9 に、DTMF コードの一覧を示します。

**表 3-9** 会議 IVR サービス設定 - DTMF コード

操作	DTMF 文字列	許可
自己回線のミュート	*6	全員
自己回線のミュート解除	#6	全員
発信ボリュームを上げる	*9	全員
発信ボリュームを下げる	#9	全員
自分以外の全員をミュート	*5	議長
自分以外の全員をミュート解除	#5	議長
パスワードの変更	*77	議長
着信参加者のミュート	*86	議長
着信参加者ミュート解除	#86	議長
再生ヘルプメニュー	*83	全員
点呼を有効にする	*32	議長
点呼を無効にする	#32	議長
点呼名前の見直し	*33	議長
点呼名前の見直しを停止	#33	議長
会議の終了	*87	議長
Click&View の開始	**	全員
議長に変更	*78	全員
受信ボリュームを上げる	*76	全員
受信ボリュームを下げる	#76	全員
全員ミュートを無効にする	設定可能	全員
安全な会議	*71	議長
安全でない会議	#71	議長

**表 3-9**      会議 IVR サービス設定 - DTMF コード

操作	DTMF 文字列	許可
参加者を表示	*88	全員

# 用語集

この付録では、Polycom RMX 2000 に関連し、RMX 2000 ドキュメントで一般的に使用される用語と略語を説明します。

略語 / 用語	説明
AGC	Auto Gain Control の略。すべての参加者の信号のバランスを保つことで、雑音およびボリュームを調整するメカニズムです。
帯域幅	チャンネルの情報伝送容量を定義します。アナログシステムでは、帯域幅はチャンネルが伝送できる最大周波数と最小周波数の差であり、単位はヘルツです。接続の帯域幅が大きいほど一定の時間で送信されるデータが多くなるため、ビデオ解像度を高めたり、会議のサイトを増やすことが可能になります。詳細については、「回線速度」を参照してください。
Bonding	ON Demand INterpolarity Group の帯域幅。2 つの 64 Kbps B チャンネルを結合して 1 つの 128 Kbps チャンネルとして機能させる通信プロトコルです。複数の BRI チャンネルを使用する場合、Bonding では単一の D チャンネルがすべての BRI チャンネルに適用され、残りの D チャンネルはデータ転送に使用されます。 相互参照：「BRI」。
Bps、Kbps	ビット / 秒およびキロビット / 秒。帯域幅の単位です。(送信メディアを使用して) 通信回線を 1 秒間に流れることができるデータの量を示します。 1 Kbps = 1000 Bps
BRI	Basic Rate Interface の略。2 つの B チャンネル (各 64 Kbps) および 1 つの D チャンネル (16 Kbps) の合計 3 チャンネルで構成される、データ転送用 ISDN 接続の一種です。

略語 / 用語	説明
キャリア	電気通信による送信サービスを提供する電話会社などの企業。
CIF、4CIF、QCIF	CIF は Common Intermediate Format の略で、ITU-T の H.261 標準および H.263 標準のオプション部分です。CIF では、176 ピクセルで構成された、288 本のノンインターレース輝度線の仕様が定義されています。CIF は、1 秒あたりのフレームレート 7.5、10、15、または 30 で送信できます。CIF を使用して操作している場合は、256 K ビット (K = 1024) を超えるデータは送信できません。CIF ビデオフォーマットでは、352 ~ 288 ピクセルのビデオイメージを 36.45 Mbps および 30 フレーム / 秒で送信可能です。
コーデック	Coder-decoder の略。ビデオ会議に使用されるエンドポイントであるビデオカメラやビデオボードを指します。
会議	ビデオおよびオーディオ情報を交換する 2 つ以上のエンドポイント間の接続。接続されているエンドポイントが 2 つのみの場合は、ポイントツーポイント会議と呼ばれ、MCU は不要です。3 つ以上のエンドポイントが接続されている場合は、マルチポイント会議と呼ばれ、管理システムとして MCU (Multipoint Control Unit) が必要です。
CSU	Channel Service Unit の略。通信ネットワークとデータターミナル間のインターフェースとして使用される、顧客が調達しなければならない装置です。
DBA	Dynamic Bandwidth Allocation の略。LPR にパケットを送信するために必要な帯域幅を割り当てるのに使います。
DTMF	トーンダイヤル電話によって使用される符号化された信号の体系。コンピュータが信号を簡単に認識できるように、固有の音、周波数、またはトーンが各キーに割り当てられています。コードを使用して、データの入力と音声処理システムの制御を行うことができます。DTMF 信号は、接続全体を通過して宛先デバイスに到達できるため、MCU との接続が確立された後のリモート制御に使用されます。



略語 / 用語	説明
<i>E1 回線</i>	欧州で使用する 2 Mb のデジタル交換回線。
<i>エンドポイント</i>	電話をかけることができ、MCU または他のエンドポイントからの電話を受けることのできるハードウェアデバイスまたはデバイスセット。たとえば、電話、PC に接続されたカメラとマイク、統合型ルームシステム（会議システム）などがエンドポイントです。
<i>FECC</i>	Far End Camera Control（相手側カメラ制御）の略。特定のビデオカメラに付属する、参加者によるリモートカメラの制御を可能にするソフトウェア。LSD とともに Continuous Presence ビデオ会議で使用されます。
<i>フレーム</i>	特定のプロトコルで送信するビデオデータの基本ブロックを構成するビットの集合。
<i>フレームレート</i>	1 秒間に画面に表示されるビデオフレームの数。単位は fps（フレーム / 秒）。
<i>G.711</i>	ITU-T のオーディオアルゴリズム。64Kbps、3.4 kHz。
<i>G0.722</i>	ITU-T のオーディオアルゴリズム。64Kbps、7 kHz。
<i>G0.728</i>	ITU-T のオーディオアルゴリズム。16Kbps、3.4 kHz。
<i>ゲートキーパー</i>	次の 2 つの主要機能を実行するサーバの一種。1) 端末およびゲートウェイの LAN エイリアスアドレスを IP アドレスに変換する。2) 帯域幅管理を提供する。
<i>H.221</i>	ビデオ、オーディオ、コントロール、およびユーザデータを 1 つのシリアルビットストリームに多重化する方法を定義した ITU-T 標準。
<i>H.230</i>	マルチポイント制御システムの単純なプロシージャを定義し、ネットワークメンテナンス機能を規定した ITU-T 標準。
<i>H.231</i>	MCU 機能群と動作要件を定義した ITU-T 標準。
<i>H.242</i>	システム間の通信の開始と機能ネゴシエーションプロシージャを定義した ITU-T 標準。

略語 / 用語	説明
<i>H.243</i>	マルチポイント会議におけるシステム間の通信の開始と機能ネゴシエーションプロシーダを定義した ITU-T 標準。
<i>H.261</i>	Px64 ビデオ符号化アルゴリズムを定義した ITU-T 標準。
<i>H.263</i>	384 Kbps を下回る回線速度での高度な圧縮およびビデオイメージ品質を規定した ITU-T 標準。この標準は、すべてのコーデックでサポートされるわけではありません。
<i>H.264*</i>	Polycom 独自開発のビデオ圧縮標準。
<i>H.264</i>	回線速度の低い接続での高度な圧縮およびビデオイメージ品質を規定した ITU-T 標準。Video Switching 会議の最も高度な共通メカニズムに組み込まれています。
<i>H.320</i>	ビデオ会議に関する H シリーズ勧告がどのように連携するかを定義した ITU-T 標準。
<i>H.323</i>	インターネットを含む IP ベース (LAN) ネットワークでのオーディオ、ビデオ、データ通信に関する ITU-T 標準。
<i>IP</i>	Internet Protocol の略。インターネットの基盤を形成する実用プロトコルです。
<i>ISDN</i>	Integrated Services Digital Network の略。
<i>ITU-T 標準</i>	ITU-T は International Telecommunications Union, Telecommunication Standardization Sector ( 国際電気通信連合電気通信標準化部門 ) の略。旧称 CCITT。電気通信に関する公式標準を策定する国際団体です。
<i>LAN</i>	Local Area Network の略。ネットワークのオペレーティングシステムを介して連結されたコンピュータなどのデバイスの集合です。
<i>LDAP</i>	Lightweight Directory Access Protocol の略。
<i>回線速度</i>	通信デバイスによって使用される帯域幅の量。単位は Kbps ( キロビット / 秒 ) です。

略語 / 用語	説明
<i>LPR</i>	Lost Packet Recovery の略。失われたパケットの再生に必要なリカバリ情報を含む追加パケットを作成するためのアルゴリズムです。
<i>MCU</i>	Multipoint Control Unit の略。ビデオ会議で 3 か所以上のサイトを接続するデバイスです。
ヌルモデムケーブル	2 台のデジタルデバイスが互いに直接接続されるときに通信機器が不要になるように設計されたシリアルケーブル。
参加者	エンドポイントを使用して会議に接続する個人。ルームシステムを使用する場合は、複数の参加者が 1 つのエンドポイントを使用します。
<i>PRI</i>	Priority Rate Interface の略。大容量のデータ通信用に設計された ISDN インターフェース。23 の B チャンネル (各 64 Kbps) と 1 つの D チャンネル (64 Kbps) で構成されます。欧州の PRI 回線は、30 本の B チャンネル + 1 本の D チャンネル。
<i>PSTN</i>	Public Switched Telephone Network の略。
<i>QCIF</i>	Quarter CIF の略。イメージサイズが 176×144 ピクセルのビデオフォーマット。30 フレーム / 秒で 9.115 Mbps を送信します (CIF の容量の 4 分の 1)。詳細については、「CIF」を参照してください。
<i>QoS</i>	Quality of Service の略。QoS は、パケット間の平均遅延など、ネットワークサービスのパフォーマンスを定義します。
<i>RS-232</i>	シリアルインターフェース接続に関する標準。
<i>SIP</i>	Session Initiation Protocol の略。IP ネットワークで機能するように設計されたアプリケーション層プロトコル。
スパン	ISDN 回線または専用回線。スパンの種類は T 1 (米国) または E1 (欧州) のいずれかです。サーキットとも呼ばれます。
<i>T1 回線</i>	米国で使用される 1.5Mb のデジタル交換回線。

略語 / 用語	説明
<i>ToS</i>	Type of Service の略。オーディオパケットおよびビデオパケットをルーティングするための最適化タギングを定義します。
<i>WAN</i>	Wide Area Network の略。LAN より広い地理的領域に対応する通信ネットワーク。
<i>Whiteboard</i>	共有ドキュメントを配置するための画面上の共有ノート。